

2016年度

大学院シラバス

国際言語文化研究科

摂南大学大学院

国際言語文化研究科

Graduate School of International Languages and Cultures

国際言語文化専攻

Division of International Languages and Cultures

国際言語文化研究科の教育目標とカリキュラム編成方針

国際化の潮流はますます加速し、政治・経済・文化・情報など、社会のあらゆる面で国際的な相互依存関係が強まっています。わが国の社会や文化もグローバルな共生の世界を志向する時代に入ってきました。

また一方では、世界各地で戦争や紛争が後を絶たず、さまざまな悲劇を生んでいます。さらに環境問題、経済問題など多くの問題が世界的規模で拡大しています。今やわれわれは、これらの諸問題と否応なく直面せざるを得ない状況となっており、国際社会においてわが国が果たすべき役割はますます高まりつつあります。

国際言語文化研究科においては、このような状況を踏まえ、国際化がもたらす複雑な諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目指します。具体的には、欧米とアジアに重点を置き、その言語と文化を深く学びます。

教育課程は、「欧米言語文化研究領域」と「アジア言語文化研究領域」の2研究領域、および共通授業科目で構成され、さらに、それぞれの研究領域は、言語文化特論科目群と地域文化特論科目群、総合演習科目群からなっています。また、共通授業科目には、専門外国語能力を涵養する「上級英語」「上級中国語」「上級スペイン語」「上級インドネシア・マレー語」を含んでいます。

とくに本研究科においては、一つの研究領域における高度な学習と主体的な研究を通して専門性を深めるとともに、他研究領域の科目も広く履修することによって、複眼的かつ学際的な視点を養うことを主眼としています。

【履修方法】

学生は、専攻する研究領域の指導教員から、履修および研究についての指導を受けるものとする。

1. 選択した研究領域の「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（論文指導を含む）」4科目8単位を必修とする。
2. 選択した研究領域の授業科目の中から、当該指導教員が担当する授業科目（特論）を含む6科目12単位以上を選択必修とする。
3. 他の研究領域の選択科目から、2科目4単位以上を選択必修とする。
4. 共通科目の中から、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級中国語Ⅰ・Ⅱ」「上級スペインⅠ・Ⅱ」「上級インドネシア・マレー語Ⅰ・Ⅱ」のいずれか2科目2単位を含む4科目6単位以上を選択必修とする。

ただし、①研究科長が認めた場合は、他研究科の授業科目を履修しその修得単位を共通科目の単位数に含めることができる。ただし、最大4単位までとする。

- ②外国人留学生については、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級中国語Ⅰ・Ⅱ」「上級スペインⅠ・Ⅱ」「上級インドネシア・マレー語Ⅰ・Ⅱ」を「アジア言語文化特論ⅥA・ⅥB」に読み替えることができる。

授業(指導)計画の記載内容の凡例

授業(指導)計画は、以下の項目に沿って記載しています。

1. 科目名等 全授業(指導)科目名に英文名を併記した。
対象となる年次、開講学期、単位数、担当者の氏名を順に記載した。
2. 授業(指導)概要・目的 授業(指導)全体の概要、各研究科の教育目的に基づいた位置付けを記載した。
3. 到達目標 授業(指導)の目的とする到達目標について、できるだけ具体的に記載した。
4. 指導方法と留意点 授業の進め方や予習・復習の指示、課題やレポートの指示等を記載した。
5. 授業(指導)計画 授業(指導)内容が分かるように、原則として授業(指導)テーマ、内容・方法等を記載した。
6. 事前・事後学習課題 授業時間外における学習(予習・復習)内容が分かるように、できるだけ具体的に記載した。
7. 評価基準 成績評価の方法について、できるだけ具体的に記載した。
8. 教材等 授業(指導)で使用する教材について記載した。

目 次

英米言語文化特論ⅠA・ⅠB (応用言語学・語用論)	1
英米言語文化特論ⅡA・ⅡB (応用言語学)	2
英米言語文化特論ⅢA・ⅢB (英語語法・辞書学)	3
英米言語文化特論ⅣA・ⅣB (英語学)	4
英米言語文化特論ⅤA・ⅤB (アメリカ研究)	5
英米言語文化特論ⅥA・ⅥB (英語学・異文化コミュニケーション)	6
英米言語文化特論ⅦA・ⅦB (言語学)	7
英米言語文化特論ⅧA・ⅧB (英語教育)	8
欧米地域文化特論ⅠA・ⅠB (ヨーロッパ思想)	9
欧米地域文化特論ⅡA・ⅡB (ラテンアメリカ文化)	10
欧米地域文化特論ⅢA・ⅢB (西洋史学)	11
欧米地域文化特論ⅣA・ⅣB (多文化社会論)	12
欧米言語文化研究総合演習Ⅰ	13~16
欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	16~19
欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	20~23
欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	23~26
アジア言語文化特論ⅠA・ⅠB (中国文学)	27
アジア言語文化特論ⅡA・ⅡB (日中比較文化)	28
アジア言語文化特論ⅢA・ⅢB (比較言語学)	29
アジア言語文化特論ⅣA・ⅣB (日本文学)	30
アジア言語文化特論ⅤA・ⅤB (日本語学)	31
アジア言語文化特論ⅥA・ⅥB (日本語教育)	32
アジア地域文化特論ⅡA・ⅡB (文化人類学)	33
アジア地域文化特論ⅢA・ⅢB (美術史)	34
アジア地域文化特論ⅤA・ⅤB (日本地誌)	35
アジア言語文化研究総合演習Ⅰ	36~38
アジア言語文化研究総合演習Ⅱ	38~40
アジア言語文化研究総合演習Ⅲ	41~43
アジア言語文化研究総合演習Ⅳ	43~45
上級英語Ⅰ・Ⅱ	46~48
上級中国語Ⅰ・Ⅱ	49~50
上級スペイン語Ⅰ・Ⅱ	51~52
上級インドネシア・マレー語Ⅰ・Ⅱ	53~54
国際経済特論Ⅰ・Ⅱ	55
異文化理解Ⅰ・Ⅱ	56~60

科目名	英米言語文化特論 I A (応用言語学・語用論)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesIA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	西川 眞由美

授業 (指導) 概要・目的	この授業では、語用論に関する様々な理論を使用し、状況に応じたコミュニケーション (主に言語伝達) を多様な側面から分析し研究する。 前半は語用論に関する主な論文を読み進め、理論自体の理解を深める。 後半は、具体的な言語使用例を使って、なぜ話し手はその状況でその発話を使うのか?聞き手はどのようにしてその発話を解釈するのか?さらに、その発話によって何が伝えられるのかを考察する。敬意表現やポライトネスなど、対人関係などにも着目しながら、効果的なコミュニケーションのあり方を追求する。
到達目標	言語学、特に語用論の基礎となる概念や枠組みを理解すること、英語で言語学の論文を読みこなす力、さらに物事を論理的に思考する力を養うこと、言語表現が何をどのように伝えるのかを考察すること、などを目標とする。
授業方法と留意点	授業では、英語と日本語の多くの文献を読むので、必ず予習をして授業に臨むこと。
授業 (指導) 計画	授業は、主に下記の項目に沿って行う。 (1) 語用論とは (2) さまざまな語用論の理論 (3) 発話解釈と認知能力 (4) コミュニケーションにおける労力と効果 (5) 発話の含意 (6) 敬意表現やポライトネス (6) レトリック
事前・事後学習課題	各回のして教材をあらかじめ読み、要点を整理しておくこと。また授業終了後、自分の考えをまとめ、中間および期末レポートの作成に備えること (合計 30 時間)。中間および期末レポートの作成 (合計 30 時間)
評価基準	授業態度、予習の程度、レポートを総合的に評価する。
教材等	適宜プリント配布
備考	

科目名	英米言語文化特論 I B (応用言語学・語用論)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesIB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	西川 眞由美

授業 (指導) 概要・目的	この授業では、語用論に関するさまざまな理論を使用し、状況に応じたコミュニケーション (おもに言語伝達) を多様な側面から分析し研究する。英米言語文化特論 I A (応用言語学・語用論) で学んだ語用論に関するさまざまな理論を使って、間接表現、ポライトネス (敬意表現)、レトリック (比喩表現、皮肉、誇張など)、談話標識などがどのように解釈されるのか、またそれらを使ってコミュニケーションを行うことによってどのような効果が得られるのかを考察する。
到達目標	言語学、特に語用論の基礎となる概念や枠組みを理解すること、英語で言語学の論文を読みこなす力、さらに物事を論理的に思考する力を養うこと、言語表現が何を伝えるのかを考察することを目標とする。
授業方法と留意点	授業では、英語と日本語の多くの文献を読むので、必ず予習をして授業に臨むこと。
授業 (指導) 計画	授業は、基本的に下記の項目に沿って行う。 (1) 間接表現と含意 (2) ポライトネス (敬意表現) (3) レトリック表現の解釈と効果 (4) 談話標識の意味と機能 など
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ読み、要点を整理しておくこと。また、授業終了後、自分の考えをまとめ、中間および期末レポートの作成に備えること (合計 30 時間)。中間レポートおよび期末レポートの作成 (合計 30 時間)。
評価基準	授業態度、予習の程度、授業への熱意、レポート、などを総合的に評価する。
教材等	適宜プリント配布
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅡA (応用言語学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesIIA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	シヨーン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの 基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
到達目標	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの 基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	様々なジャンルのテキストを考察する。テキストの基本構造の学習。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅡB (応用言語学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesIIB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	シヨーン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの 基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
到達目標	毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	テキスト全体、言語や画像、それぞれの機能を分析し、意味創出の原理を学ぶ。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅢA (英語語法・辞書学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅢA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	現代英語の変化する姿を、実際のデータにもとづいて調査し、そのような変化がなぜ起っているのかについて考えていく。現在の英語の姿は、歴史的な変化の積み重ねであるが、それぞれの変化には相応の理由がある。そのような理由を探る。また、現在の英語の姿をいかに辞書の記述に反映するかなどもふくめて、何をどのようにどこまで辞書の記述として掲載すべきかなどについて、辞書学の知見を踏まえて検討・議論する。
到達目標	英語で書かれた英語学の文献を読み解く能力を身につける。 実際のデータをもとに、現代英語の在り様を考えることができるようになる。 自らが発見したデータに自分なりのやり方で説明ができるようになる。
授業方法と留意点	文法書や研究書の抜粋を読み、そこに書かれている記述について討論をする。文法書の記述に反するような例を見つけて、どのような点が問題となるのかといったことについて、プレゼンテーションをする。
授業 (指導) 計画	第1回目：オリエンテーション 第2回目-第15回目：Quirk et al. (1985)、Huddleston & Pullum (2001) などをはじめとする英語の文法書や、現代英語の語法を扱った論文の抜粋を読む。合わせて、自分で用例を収集し、辞書や文献の記述と比較検討を行い、問題点を探っていく。教員との討論を中心に授業を進める。
事前・事後学習課題	毎回の配布教材を読み込み、内容をして、授業での発表に備えること。事後の学習では、英字新聞やペーパーバックなどに使用されている、興味深い英語の表現や文法事項を収集し、期末レポートの作成を行う。
評価基準	授業中のプレゼンテーションと期末レポートを総合的に判断する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅢB (英語語法・辞書学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅢB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	現代英語の変化する姿を、実際のデータにもとづいて調査し、そのような変化がなぜ起っているのかについて考えていく。現在の英語の姿は、歴史的な変化の積み重ねであるが、それぞれの変化には相応の理由がある。そのような理由を探る。また、現在の英語の姿をいかに辞書の記述に反映するかなどもふくめて、何をどのようにどこまで辞書の記述として掲載すべきかなどについて、辞書学の知見を踏まえて検討・議論する。
到達目標	英語で書かれた英語学の文献を読み解く能力を身につける。 実際のデータをもとに、現代英語の在り様を考えることができるようになる。 自らが発見したデータに自分なりのやり方で説明ができるようになる。
授業方法と留意点	文法書や研究書の抜粋を読み、そこに書かれている記述について討論をする。文法書の記述に反するような例を見つけて、どのような点が問題となるのかといったことについて、プレゼンテーションをする。 後期は特に辞書の記述との比較を中心に行う。
授業 (指導) 計画	第1回目：オリエンテーション 第2回目-第15回目：辞書学の論文の抜粋を読みながら、日本人にとっての辞書とはいかにあるべきか、また、そのような記述は海外で出版される英英辞典を含めた英語の辞書にどのような貢献ができるのかを考える。辞書記述を実際の英語の姿と比較し、辞書記述の妥当性を考えていく。担当教員との討論を中心に進める。
事前・事後学習課題	毎回の配布教材を読み込み、内容をして、授業での発表に備えること。事後の学習では、英字新聞やペーパーバックなどに使用されている、興味深い英語の表現や文法事項を収集し、期末レポートの作成を行う。
評価基準	授業中のプレゼンテーションと期末レポートを総合的に判断する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅣA (英語学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅣA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	田中 秀毅

授業 (指導) 概要・目的	本科目は英語を統語的・意味的観点から分析する。日本語の対応表現にも注目し、両言語の統語的・意味的特徴を比較する。英語を個別言語のレベルだけでなく、日本語も含めた人間言語という普遍的なレベルからもとらえられるようになることを目的とする。
到達目標	1. 英語や日本語を統語的・意味的観点から観察し、それを記述できるようになる。 2. 英語と日本語の統語的・意味的相違点と共通点を見出し、それらを記述的に定式化できるようになる。
授業方法と留意点	学部レベルの英語学の知識を前提とし、それを統語的・意味的分析に必要なレベルにまで高める (学部レベルの英語学の知識が不足している場合には、学部の該当科目の聴講を課すことがある)。指定した英語学・日本語学の論文を事前に読んでもらい、その内容を要約してもらったうえでディスカッションを行うという流れで指導する。
授業 (指導) 計画	まず、統語論と意味論に関する概説書 (英文) を輪読し、各分野に特有の専門用語に慣れる。続いて、動詞に関する個別論や名詞に関する個別論を取り上げ、輪読する。
事前・事後学習課題	事前課題： 指定された論文を相応の時間をかけて予習する。理解しづらい部分については、授業で紹介する参考書にあたって解決を試みる。 事後課題： 十分に時間をかけて復習し、授業内容の理解を確実にする。必要に応じて参考書にあたって知識を深めたり、あらたな疑問について次回の授業で質問できるようにすること。 ※事前・事後課題にける時間は合計 30 時間とする。
評価基準	レポート、プレゼン、授業態度を総合して評価する。
教材等	授業で指示する。
備考	1. 英語の分析には英英辞典が不可欠である (もっていない人には Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary を推奨する)。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 2. 欠席は授業に出席しなかった場合 (公欠・忌引き・病欠を含む) のすべてを対象とする (ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。

科目名	英米言語文化特論ⅣB (英語学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅣB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	田中 秀毅

授業 (指導) 概要・目的	本科目は英語を統語的・意味的観点から分析する。日本語の対応表現にも注目し、両言語の統語的・意味的特徴を比較する。英語を個別言語のレベルだけでなく、日本語も含めた人間言語という普遍的なレベルからもとらえられるようになることを目的とする。
到達目標	1. 英語と日本語の統語的・意味的特徴を正確に記述できるようになる。 2. 英語と日本語の統語的・意味的相違点と共通点を見出し、それらを理論的に定式化できるようになる。
授業方法と留意点	学部レベルの英語学の知識を前提とし、それを統語論的分析・意味論的分析に必要なレベルにまで高める (学部レベルの英語学の知識が不足している場合には、学部の該当科目の聴講を課すことがある)。指定した英語学・日本語学の論文を事前に読んでもらい、その内容を要約してもらったうえでディスカッションを行うという流れで指導する。
授業 (指導) 計画	「英米言語文化説く論ⅣA」(前期) の授業内容を引き継ぎ、動詞に関する個別論や名詞に関する個別論を輪読する。また、言語コーパスの活用法を修得し、必要に応じて言語データを収集し、理論的定式化に利用する。
事前・事後学習課題	事前課題： 指定された論文を相応の時間をかけて予習する。理解が難しい部分については、授業で紹介する参考書にあたって解決を試みる。 事後課題： 十分に時間をかけて復習し、授業内容の理解を確実にする。必要に応じて参考書にあたって知識を深めたり、あらたな疑問について次回の授業で質問できるようにすること。 ※事前・事後課題にける時間は合計 30 時間とする。
評価基準	レポート、プレゼン、授業態度を総合して評価する。
教材等	授業で指示する。
備考	1. 英語の分析には英英辞典が不可欠である (もっていない人には Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary を推奨する)。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 2. 欠席は授業に出席しなかった場合 (公欠・忌引き・病欠を含む) のすべてを対象とする (ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。

科目名	英米言語文化特論VA (アメリカ研究)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesVA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	鳥居 祐介

授業 (指導) 概要・目的	アメリカ研究(American Studies)の主要な理論と実践について学ぶ。マルクス主義、精神分析、構造主義、ポスト構造主義など、いわゆるカルチュラル・スタディーズにおいて主要な位置を占めてきた諸理論の概要を学び、それらが実際の研究にどのように生かされているのかを、実例を通じて検証する。実例は 20 世紀のアメリカ文化史、とりわけ大衆文化(Popular Culture)を対象とした研究から、受講生の関心に応じて選ぶ。
到達目標	英語圏のカルチュラル・スタディーズの問題意識と用語に親しみ、特にアメリカ合衆国の文化についての学術的論考を読解できるようになる。
授業方法と留意点	英語、日本語によるリーディングとディスカッションを中心に進める。受講生にはアメリカ合衆国の文化や歴史に対する強い関心と共に、理論的、抽象的なものを含む多くの文献を精読する意欲が要求される。
授業 (指導) 計画	受講生の語学力および関心分野に合わせて教科書を選定し、最初の 3 週間で教科書以外の文献も含めた英語文献・日本語文献からなるリーディング・リストを作成する。以降、受講生はリストに従い、文献を読み進めながらディスカッションを行う。学期末には読了した文献についてのレポートを作成する。
事前・事後学習課題	毎回、指定のリーディングについての疑問やコメントを用意して授業に臨むこと。
評価基準	ディスカッションへの貢献 70% + 学期末レポート 30%
教材等	和泉真澄・趙無名編著『アメリカ研究の理論と実践』(2007); John Storey, Cultural Theory and Popular Culture (2012)ほか
備考	研究室は 7 号館 3 階

科目名	英米言語文化特論VB (アメリカ研究)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesVB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	鳥居 祐介

授業 (指導) 概要・目的	前期開講の英米文化特論VAに引き続き、アメリカ研究(American Studies)の主要な理論と実践について学ぶ。特に研究の実例を中心に読むほか、実例の中で分析対象とされている一次資料の精読も行う。
到達目標	英語圏のカルチュラル・スタディーズの問題意識と用語に親しみ、特にアメリカ合衆国の文化についての学術的論考を読解できるようになる。
授業方法と留意点	英語、日本語によるリーディングとディスカッションを中心に進める。受講生にはアメリカ合衆国の文化や歴史に対する強い関心と共に、理論的、抽象的なものを含む多くの文献を精読する意欲が要求される。
授業 (指導) 計画	後期開始直後に、前期に作成したリーディング・リストを適宜増補、改定する。以降、受講生はリストに従い、文献を読み進めながらディスカッションを行う。学期末には読了した文献についてのレポートを作成する。
事前・事後学習課題	毎回、指定のリーディングについての疑問やコメントを用意して授業に臨むこと。
評価基準	ディスカッションへの貢献 70% + 学期末レポート 30%
教材等	和泉真澄・趙無名編著『アメリカ研究の理論と実践』(2007); John Storey, Cultural Theory and Popular Culture (2012)ほか
備考	研究室は 7 号館 3 階

科目名	英米言語文化特論VIA (英語学・異文化コミュニケーション)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesVIA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	家口 美智子

授業 (指導) 概要・目的	本講義は英語学を基本とした異文化コミュニケーションを研究することが目標である。受講者が興味のある分野・テーマに絞って論文を読んでいく。論文を読みながら、全体像の把握に努める。ディスカッションをしながら、問題点の解決策を講ずる。
到達目標	日英両言語で論文が読め、建設的な批判ができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	論文を読んでいく。そのためには相当の研究時間が必要となることに留意しなければならない。
授業 (指導) 計画	関連テーマの英語の論文を10本、日本語の論文を10本読む。研究者ごとのアプローチの違いを学習する。
事前・事後学習課題	事前に配布する論文 (英文20ページ前後、日本語論文30ページ前後) を通読し、疑問点等を洗い出しておく。(合計30h) 期末レポートの作成 (合計30h)
評価基準	ディスカッションとレポートを基本に評価する。
教材等	授業中に配布する。
備考	学会発表をめざしましょう。

科目名	英米言語文化特論VIB (英語学・異文化コミュニケーション)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesVIB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	家口 美智子

授業 (指導) 概要・目的	本講義は英語学を基本とした異文化コミュニケーションを研究することが目標である。受講者が興味のある分野・テーマに絞って論文を読んでいく。論文を読みながら、全体像の把握に努める。ディスカッションをしながら、問題点の解決策を講ずる。
到達目標	日英両言語で論文が読め、建設的な批判ができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	論文を読んでいく。そのためには相当の研究時間が必要となることに留意しなければならない。
授業 (指導) 計画	関連テーマの英語の論文を10本、日本語の論文を10本読む。研究者ごとのアプローチの違いを学習する。
事前・事後学習課題	事前に配布する論文 (英文20ページ前後、日本語論文30ページ前後) を通読し、疑問点等を洗い出しておく。(合計30h) 期末レポートの作成 (合計30h)
評価基準	ディスカッションとレポートを基本に評価する。
教材等	授業中に配布する。
備考	学会発表をめざしましょう。

科目名	英米言語文化特論ⅦA (言語学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅦIA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	後藤 一章

授業 (指導) 概要・目的	この講義では、現代英語の語彙や統語にかかわる諸問題を、コーパス言語学の観点から検証する。
到達目標	英語の語彙の用法やパターンなどを、電子コーパスを用いて実証的に研究するための基礎力を養う。
授業方法と留意点	コーパス言語学のテキストや論文を読んでいく。また、実際にコーパスの構築や分析も行う。コンピュータ処理を行うため、テキスト整形やファイル操作の知識を有していることが望ましい。
授業 (指導) 計画	前半：資料を読み、ディスカッションを行いながら、コーパス言語学の基本的な知識を習得する。 後半：コンピュータを使ってコーパスを構築し、キーワード検索やコンコーダンス分析などを行う。最終的に全体の内容をレポートにまとめる。
事前・事後学習課題	各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理し、発表の準備をしておくこと。また、日頃から自らの考えをまとめておき、中間、及び期末課題に備えること (合計 30h)。
評価基準	授業時のパフォーマンスとレポートを基本に評価する。
教材等	授業中に配布する。
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅦB (言語学)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅦIB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	後藤 一章

授業 (指導) 概要・目的	英米言語文化特論ⅦA で学んだコーパス言語学のテーマの中から興味のあるトピックを選択し、論文を執筆する。最終的に、学会発表ができるレベルを目指す。
到達目標	コーパス言語学研究を行うためのコンピュータリテラシーの向上及び、統計分析の手法を身につける。
授業方法と留意点	より高度なテキスト処理を行うために、基本的なプログラミング言語を学習する。また統計分析ソフト「R」についても学ぶ。
授業 (指導) 計画	前半：コーパス分析の様々な手法を学ぶ。 後半：それらの手法を用いて実際に各自で研究論文を執筆する。
事前・事後学習課題	授業時のパフォーマンスとレポートを基本に評価する。
評価基準	授業中に配布する。
教材等	
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅧA (英語教育)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅧA
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	齋藤 安以子

授業 (指導) 概要・目的	This course aims to study how technology (ICT) assists TEFL. You will overview various types of media technology and educational programs which have been used for language teaching and learning.
到達目標	-You will be able to evaluate ICT based teaching materials as a future teacher as well as an advanced learner of English. -You will be able to design EFL classroom activities for intermediate learners using media technology.
授業方法と留意点	-You need the basic knowledge of TEFL to learn the maximum in this course, though you don't have to be an experienced TEFL teacher. -Regular attendance with hard work is required.
授業 (指導) 計画	Media technology for school education Media technology for language classes Experience computer assisted EFL programs on market Evaluate the programs How do teachers use technology in class? How does technology assist class learning? Proposal
事前・事後学習課題	Most materials will be available in or through the facilities on campus. Make sure you will actually "experience" the EFL education programs introduced in advance. For a quick review, the following site will help: "CALL (computer assisted language learning)" by Graham Davies https://www.llas.ac.uk/resources/gpg/61 This site is much longer than the first one: "ICT4LT Module 1.4 Introduction to Computer Assisted Language Learning (CALL)" http://www.ict4lt.org/en/en_mod1-4.htm
評価基準	Presentation 40% Report 60%
教材等	to be announced
備考	

科目名	英米言語文化特論ⅧB (英語教育)	科目名 (英文)	Topics in English Language and CulturesⅧB
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	齋藤 安以子

授業 (指導) 概要・目的	This course aims to overview how various types of art, such as theatre, paintings, songs, and literature, can enrich language learning experiences. You will see how art is and can be incorporated in education of L1 and L2.
到達目標	-You will be able to observe and analyse how art is used as teaching materials in language classrooms. -You will be able to plan an EFL class using a piece of art.
授業方法と留意点	-You need the basic knowledge of TEFL to learn the maximum in this course, though you don't have to be an experienced TEFL teacher. -Regular attendance with hard work is required.
授業 (指導) 計画	Language teaching and paintings Theatre: acting and discourse analysis Songs and teaching pronunciation Language teaching and literature How L1 education uses art Proposal
事前・事後学習課題	Most materials will be available in or through the facilities on campus. Make sure you will actually read or watch the sample materials introduced in advance. In 2016, there will be one conference on language learning and performing arts in late Sept
評価基準	Presentation 40% Paper 60%
教材等	to be announced
備考	

科目名	欧米地域文化特論 I A (ヨーロッパ思想)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures I A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	有馬 善一

授業 (指導) 概要・目的	ヨーロッパは近代化をいち早く成し遂げることで、世界史をリードする存在となった。しかし、近代化の運動そのものは、ヨーロッパという一地域に限定されるものではなく、近代的な人間観、資本主義と産業社会の発達、科学・技術の進歩は、やがて地球的規模に拡大し、現代においてはかつて植民地として欧米に支配されていた地域の隆盛をみるに至っている。 本講義では近代を特徴付けている「近代性」とは何であったのかという問題提起から始めて、「もはや近代ではない」と言われる現代のポストモダンの動向の本質に関する考察まで議論を展開したい。
到達目標	近代性とは何か、近代的な人間とはいかなるものかについて理解する。
授業方法と留意点	教科書を用いない、ノートによる講義形式。参加者の積極的な発言も期待する。
授業 (指導) 計画	1. 自由主義と資本主義の発達 2. 合理主義と科学・技術の進歩 3. 近代的な人間の誕生
事前・事後学習課題	授業で取り上げる近代性に関わる諸概念について、あらかじめ調べてくる。 授業中で問題となった近代の問題について、適宜、参考図書を読み、内容を報告する。
評価基準	授業内外のレポートによって判定
教材等	アンソニー・ギデنز『近代とはいかなる時代か?』(而立書房) 適宜配布する
備考	

科目名	欧米地域文化特論 I B (ヨーロッパ思想)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures I B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	有馬 善一

授業 (指導) 概要・目的	ヨーロッパは近代化をいち早く成し遂げることで、世界史をリードする存在となった。しかし、近代化の運動そのものは、ヨーロッパという一地域に限定されるものではなく、近代的な人間観、資本主義と産業社会の発達、科学・技術の進歩は、やがて地球的規模に拡大し、現代においてはかつて植民地として欧米に支配されていた地域の隆盛をみるに至っている。 本講義では近代を特徴付けている「近代性」とは何であったのかという問題提起から始めて、「もはや近代ではない」と言われる現代のポストモダンの動向の本質に関する考察まで議論を展開したい。
到達目標	ポスト・モダンとは何かということを理解し、ポスト・モダンの状況の問題性を把握する。
授業方法と留意点	教科書を用いない、ノートによる講義形式。参加者の積極的な発言も期待する。
授業 (指導) 計画	1. 資本主義の帰結としての情報化・消費化社会 2. グローバル化の問題 3. 近代的人間の〈死〉 4. 科学・技術の〈暴走〉と危険社会の到来
事前・事後学習課題	授業で取り上げるポストモダンに関わる諸概念について、あらかじめ調べてくる。 授業中で問題となった近代の問題について、適宜、参考図書を読み、内容を報告する。
評価基準	授業内外のレポートによって判定
教材等	教材を適宜配布する。 ボードリヤール『消費社会の神話と構造』(紀伊國屋書店)
備考	

科目名	欧米地域文化特論Ⅱ A (ラテンアメリカ文化)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures II A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	メキシコ中央部に栄えていたアステカ王国が 1521 年、エルナン・コルテスに征服されてから、メキシコの先住民文明は絶滅したと誤解する人が今なお多い。現在のメキシコ文化は先スペイン期の伝統を土台に、スペインの色が混じったものが独立後に発展してきたものである。いくつもの文化がまじりあう、メスティサッへのプロセスを見てゆく。
到達目標	専門家による論文を批判的に読む。
授業方法と留意点	論文に利用された一次史料も読みながら、著者の論理を分析する。
授業 (指導) 計画	
事前・事後学習課題	毎回、進む範囲を決めておくので、予習を十二分にして授業に臨むこと。
評価基準	提出物 (レポートなど) による。
教材等	未定
備考	

科目名	欧米地域文化特論Ⅱ B (ラテンアメリカ文化)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures II B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	メキシコ中央部に栄えていたアステカ王国が 1521 年、エルナン・コルテスに征服されてから、メキシコの先住民文明は絶滅したと誤解する人が今なお多い。現在のメキシコ文化は先スペイン期の伝統を土台に、スペインの色が混じったものが独立後に発展してきたものである。いくつもの文化がまじりあう、メスティサッへのプロセスを見てゆく。
到達目標	専門家による論文を批判的に読む。
授業方法と留意点	論文に利用された一次史料も読みながら、著者の論理を分析する。
授業 (指導) 計画	
事前・事後学習課題	毎回、進む範囲を決めておくので、予習を十二分にして授業に臨むこと。
評価基準	提出物 (レポートなど) による。
教材等	未定
備考	

科目名	欧米地域文化特論ⅢA (西洋史学)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures III A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	歴史学の視点から西洋世界を中心とするジェンダー問題の諸相に迫る。第一次世界大戦期を生きた女性たちの多様な経験を追いながら、「戦う男」と「戦わない(戦えない)女」という図式ではとらえきれない戦時のジェンダー問題について考察する。募兵活動をはじめとする戦争プロパガンダに「動員」された女性の姿を分析することで、「犠牲者」「戦いを鼓舞する者」「平和の使者」といったさまざまな女性像について考察する。
到達目標	第一次世界大戦を中心とする西洋近現代史およびジェンダー史の概要をつかみ、論点を理解した上で、図像史料や手稿史料等の読解方法を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	一次史料を含む多くの文献をもちいるため、必ず予習をして授業にのぞむこと。
授業 (指導) 計画	(1) 大戦研究の今、(2) 大戦とジェンダー～「戦う性」と「戦わない性」～、(3) 犠牲者としての女性～ベルギーの悲劇～、(4) 戦いを鼓舞する女～白い羽運動～、(5) 銃後の守りと戦時ヴォランティア
事前・事後学習課題	中間発表および期末レポート作成 (合計 30h)
評価基準	授業への取り組み、レポート。
教材等	プリント配布。参考文献については適宜指示する。
備考	

科目名	欧米地域文化特論ⅢB (西洋史学)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures III B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	歴史学の視点から西洋世界を中心とするジェンダー問題の諸相に迫る。第一次世界大戦期を生きた女性たちの多様な経験を追いながら、「戦う男」と「戦わない(戦えない)女」という図式ではとらえきれない戦時のジェンダー問題について考察する。とくに、前線と銃後の境を越えて「戦った」女性たちに焦点をあて、女性部隊が巻き起こした論争やスキャンダルを通して、ジェンダーとミリタリズムの関係について考察する。
到達目標	第一次世界大戦を中心とする西洋近現代史およびジェンダー史の概要をつかみ、論点を理解した上で、図像史料や手稿史料等の読解方法を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	一次史料を含む多くの文献をもちいるため、必ず予習をして授業にのぞむこと。
授業 (指導) 計画	(1) 「男の聖域」への進出～「戦う」女たち～、(2) セルビア軍の女性兵士、(3) ロシアの女性兵士、(4) イギリスの「戦う」女たち～陸海軍女性部隊～、(5) 大戦・ジェンダー・ミリタリズム
事前・事後学習課題	中間発表および期末レポート作成 (合計 30h)
評価基準	授業への取り組み、レポート。
教材等	プリント配布。参考文献については適宜指示する。
備考	

科目名	欧米地域文化特論ⅣA (多文化社会論)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures IV A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業 (指導) 概要・目的	なぜ人は国境を越えて移動するのか?これはもっぱら経済格差によるプッシュ-プル要因によって説明できる問題ではない。送り出し国の社会構造、受け入れ国の法制、受け入れ社会の特殊な需要背景、双方の歴史的な関係などを考慮すべきであり、社会学的、経済学的、政治学的な解明を要す。人の移動の結果、現代世界に広がる社会の多文化化について、特定地域について現状を把握する。
到達目標	「多民族・多文化」、「複数言語」という条件が現代世界の各地に展開し、軋轢ばかりではなく社会・文化的変容を生みだしている。その歴史的過程を米州地域を中心に読み解き現状理解につなげる。
授業方法と留意点	受講者の関心や専攻分野に鑑み、授業で扱う地域は米州とは限らず、欧州または日本社会を取り上げることもありうる。
授業 (指導) 計画	テーマに関する基本文献を読むことで基礎知識を蓄えた後、一連の論文を読み研究動向を把握する。
事前・事後学習課題	予め配布された文献資料や指示された参考書を読み、レジュメを作成しておくこと。
評価基準	授業への取り組み状況とレポートによる。
教材等	適宜配布する。
備考	

科目名	欧米地域文化特論ⅣB (多文化社会論)	科目名 (英文)	Topics in Western Regions and Cultures IV B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業 (指導) 概要・目的	なぜ人は国境を越えて移動するのか?これはもっぱら経済格差によるプッシュ-プル要因によって説明できる問題ではない。送り出し国の社会構造、受け入れ国の法制、受け入れ社会の特殊な需要背景、双方の歴史的な関係などを考慮すべきであり、社会学的、経済学的、政治学的な解明を要す。人の移動の結果、現代世界で生じている諸問題のうち、多文化共生への課題を検討する。
到達目標	「多民族・多文化」、「複数言語」という条件が現代世界の各地に展開し、軋轢ばかりではなく社会・文化的変容を生みだしている。多文化共生を実現するために必要となる制度改革や政策について米州地域の経験をもとに考察する。
授業方法と留意点	受講者の関心や専攻分野に鑑み、授業で扱う地域は米州とは限らず、欧州または日本社会を取り上げることもありうる。
授業 (指導) 計画	テーマに関する基本文献を読むことで基礎知識を蓄えた後、一連の論文を読み研究動向を把握する。
事前・事後学習課題	予め配布された文献資料や指示された参考書を読み、レジュメを作成しておくこと。
評価基準	授業への取り組み状況とレポートによる。
教材等	適宜配布する。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	西川 真由美

授業 (指導) 概要・目的	総合演習 I は英米の地域を中心とした言語・文化・思想・歴史と多岐にわたった領域にまたがっており、各々専門の研究者の指導の下、大学院学生として各自の研究テーマに沿った指導を受ける。特に、演習 I は今後 2 年間の指導計画を実施する準備段階にあり、各指導研究者と徹底的に研究の方向と方法について議論を深めることが大事である。今学期はそのための入門指導を精密に実施し、研究倫理について理解し、今後の研究の指針を構築する。
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げ、実現可能な計画のもと理論的かつ実践的な基礎知識を養う。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	各研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各自の研究テーマに即して、最先端の基礎知識を理論的かつ実践的に取り組めるよう、効率よく研究できる最適な方法を通して指導するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	ショー ン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
到達目標	毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	様々なジャンルのテキストを考察する。テキストの基本構造の学習。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	総合演習 I は英米の地域を中心とした言語・文化など多岐に渡った領域にまたがっている。大学院学生として各自の研究テーマに沿った指導を受ける。特に、演習 I は今後 2 年間の指導計画を実施する準備段階であり、担当者と一緒に研究の方向と方法について議論を深めることが大切である。前期はそのための入門指導を実施し、研究倫理について理解し、今後の研究の指針を構築する。
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げ、実現可能な計画の下、理論的かつ実践的な基礎知識を獲得する。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	理論に偏らず、具体的なデータを使用した指導を行う。そのため、単に文献を読むだけでなく、英語の実例を丹念に集めていく作業が必要になる。普段から、ニュースやペーパーバックなどの英語に触れることが望ましい。
授業 (指導) 計画	学生の研究テーマに即して、最先端の基礎知識を獲得し、理論に偏らず実証的な研究に取り組めるよう、最適な方法を使って指導する。 第 1 回目：オリエンテーション、今後の方針の確認。 第 2 回目：研究計画テーマの設定および、研究計画の作成。 第 3 回目～第 15 回目：研究計画にそって、文献の渉猟やデータの収集を進める。
事前・事後学習課題	事前：文献渉猟や読み込み、資料収集・論文作成など各自必要な作業を行う。 事後：指導教員に指摘された問題点などを検討し、修正していく。
評価基準	授業中のプレゼンテーションおよび期末レポートで総合的に判断する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	家口 美智子

授業 (指導) 概要・目的	本講義は修士論文執筆の指導を行う。 ①テーマに沿った論文を講読する。 ②テーマに関連する言語事象のデータ取りを行う。 ③論理的に説明できるようにディスカッションを行う。 ④執筆内容を確認していく。
到達目標	オリジナリティのある学術論文を書き上げる。 洗練された論文で使用される英文の書き方を習得する。
授業方法と留意点	①個別指導を行う、②毎週英文でのレポートを課す 課題をしっかりとこなすこと。
授業 (指導) 計画	①細分化したサブテーマに基づき、毎週レポートを書く。 ②①を行うのに必要な論文を講読する。 ③レポートの確認を行う。
事前・事後学習課題	授業中指示する。
評価基準	課題を総合して評価する。
教材等	授業で配布する。
備考	学会発表を目指しましょう。

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	総合演習 I は英米の地域を中心とした言語・文化・思想・歴史と多岐にわたった領域にまたがっており、各々専門の研究者の指導の下、大学院学生として各自の研究テーマにそった指導を受ける。特に、演習 I は今後 2 年間の指導計画を実施する準備段階であり、各指導研究者と徹底的に研究の方向と方法について議論を深めることが大事である。今学期はそのための入門指導を精密に実施し、研究倫理について理解し、今後の研究の指針を構築する。
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げ、実現可能な計画の下理論的かつ実践的な基礎知識を養う。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	各研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各自の研究テーマに則して、最先端の基礎知識を理論的かつ実践的にとり組めるよう、効率よく研究できる最適な方法を通して指導するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	論文執筆に必要な文献、資料の探し方から、その資料価値の判断の仕方、読み方、使い方を指導する。
到達目標	必要な資料コーパスを知り、使えるようにする。
授業方法と留意点	量より質を求める。
授業 (指導) 計画	基本的な文献の調べ方、読み方を指導する。
事前・事後学習課題	量より質を重んじるので、いかに調べ、どのように考えるか。
評価基準	授業参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 I	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業 (指導) 概要・目的	総合演習 I は欧米の地域を中心とした言語・文化・思想・歴史と多岐にわたった領域にまたがっており、各々専門の研究者の指導の下、大学院学生として各自の研究テーマに沿った指導を受ける。特に、演習 I は今後 2 年間の指導計画を実施する準備段階にあり、各指導研究者と徹底的に研究の方向と方法について議論を深めることが大事である。今学期はそのための入門指導を精密に実施し、研究倫理について理解し、今後の研究の指針を構築する。
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げ、実現可能な計画のもと理論的かつ実践的な基礎知識を養う。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	各研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各自の研究テーマに即して、最先端の基礎知識を理論的かつ実践的に取り組めるよう、効率よく研究できる最適な方法を通して指導するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習 II	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	西川 真由美

授業 (指導) 概要・目的	総合演習 II は総合演習 I の基礎の上、さらにディスカッション・文献研究などを通して各自の研究テーマを深め、応用する能力を養う。
到達目標	各研究テーマの理解とその知識を応用する能力を学ぶ。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導研究者のもと、理論的かつ実践的な応用力を身に付ける最適な方法を基に指導計画を設定するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	ショー ン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの 基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
到達目標	毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	テキスト全体、言語や画像、それぞれの機能を分析し、意味創出の原理を学ぶ。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰは英米の地域を中心とした言語・文化など多岐に渡った領域にまたがっている。大学院学生として各自の研究テーマに沿った指導を受ける。特に、演習Ⅰは今後2年間の指導計画を実施する準備段階であり、担当者と徹底的に研究の方向と方法について議論を深めることが大切である。前期はそのための入門指導を実施し、研究倫理について理解し、今後の研究の指針を構築する。
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げ、実現可能な計画の下、理論的かつ実践的な基礎知識を獲得する。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	理論に偏らず、具体的なデータを使用した指導を行う。そのため、単に文献を読むだけでなく、英語の実例を丹念に集めていく作業が必要になる。普段から、ニュースやペーパーバックなどの英語に触れることが望ましい。
授業 (指導) 計画	学生の研究テーマに即して、最先端の基礎知識を獲得し、理論に偏らず実証的な研究に取り組めるよう、最適な方法を使って指導する。 第1回目：欧米言語文化総合演習Ⅰの指導内容にもとづき、今後の方針の確認。 第2回目―第15回目：研究計画にそって、文献の渉猟やデータの収集を進める。
事前・事後学習課題	事前：文献渉猟や読み込み、資料収集・論文作成など各自必要な作業を行う。 事後：指導教員に指摘された問題点などを検討し、修正していく。
評価基準	授業中のプレゼンテーションおよび期末レポートで総合的に判断する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	家口 美智子

授業 (指導) 概要・目的	本講義は修士論文執筆の指導を行う。 ①テーマに沿った論文を講読する。 ②テーマに関連する言語事象のデータ取りを行う。 ③論理的に説明できるようにディスカッションを行う。 ④執筆内容を確認していく。
到達目標	オリジナリティのある学術論文を書き上げる準備を行う。 洗練された論文で使用される英文の書き方を習得する。
授業方法と留意点	①個別指導を行う、②毎週英文でのレポートを課す 課題をしっかりとこなすこと。
授業 (指導) 計画	①細分化したサブテーマに基づき、毎週レポートを書く。 ②①を行うのに必要な論文を講読する。 ③レポートの確認を行う。
事前・事後学習課題	授業中指示する。
評価基準	課題を総合して評価する。
教材等	授業で配布する。
備考	学会発表を目指しましょう。

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅱは総合演習Ⅰの基礎の上に、さらにディスカッション・文献研究等を通して各自の研究テーマを深め、応用する能力を養う。
到達目標	各研究テーマの理解とその知識を応用する能力を学ぶ。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導研究者の下、理論的かつ実践的な応用力を身につける最適な方法を基に指導計画を設定するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期(開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業(指導)概要・目的	論文執筆に必要な文献、資料の探し方から、その資料価値の判断の仕方、読み方、使い方を指導する。
到達目標	必要な資料コーパスを知り、使えるようにする。
授業方法と留意点	量より質を求める。
授業(指導)計画	基本的な文献の調べ方、読み方を指導する。
事前・事後学習課題	量より質を重んじるので、いかに調べ、どのように考えるか。
評価基準	授業参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar on Western Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期(開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業(指導)概要・目的	総合演習Ⅱは総合演習Ⅰの基礎の上、さらにディスカッション・文献研究などを通して各自の研究テーマを深め、応用する能力を養う。
到達目標	各研究テーマの理解とその知識を応用する能力を学ぶ。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業(指導)計画	各指導研究者のもと、理論的かつ実践的な応用力を身に付ける最適な方法を基に指導計画を設定するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	西川 真由美

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ、Ⅱの内容をさらに精密に研究し、指導研究者の指導に基づいて、修士論文作成の準備に取り掛かる。
到達目標	各自の研究テーマについて、修士論文に向けて明確な方向性を持つ。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導研究者のもと、各自の研究テーマを修士論文の作成に向けて効果的な指導をする。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	シヨーン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像を含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
到達目標	毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	様々なジャンルのテキストを考察する。テキストの基本構造の学習。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	欧米言語文化研究総合演習 I, II で行った研究調査をさらに精査し、研究指導計画にもとづいて、修士論文作成の準備に取りかかる。
到達目標	各自の研究テーマにもとづいて、修士論文の具体的な方向性をもつ。 修士論文の下書きを書き始める。
授業方法と留意点	先行研究の徹底的な読み込みとデータの綿密な収集を行い、修士論文の内容につなげていく。
授業 (指導) 計画	第1回目ー第15回目：先行研究の検討や収集した具体例にもとづいて、指導担当者と討論を行い、修士論文の内容をより妥当性のあるものにしていく。
事前・事後学習課題	事前：文献の渉猟と読み込み、具体例の収集など、修士論文作成に必要な作業を各自で行う。 事後：指導担当者との討論を受けて、問題点などを修正する。
評価基準	授業中のプレゼンテーション、修士論文の下書きを含めたレポートなどで総合的に評価する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	家口 美智子

授業 (指導) 概要・目的	本講義は修士論文執筆を完成させる。 ①テーマに沿った論文を講読する。 ②テーマに関連する言語事象のデータ取りを行う。 ③論理的に説明できるようにディスカッションを行う。 ④執筆内容を確認していく。
到達目標	オリジナリティのある学術論文を書き上げる。 洗練された論文で使用される英文の書き方を習得する。
授業方法と留意点	①個別指導を行う、②毎週英文でのレポートを課す 課題をしっかりこなすこと。
授業 (指導) 計画	①細分化したサブテーマに基づき、毎週レポートを書く。 ②①を行うのに必要な論文を講読する。 ③レポートの確認を行う。 ④レポートをつなぎ合わせて、論文として編集作業を行う。
事前・事後学習課題	授業中指示する。
評価基準	課題を総合して評価する。
教材等	授業で配布する。
備考	学会発表を目指しましょう。

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ、Ⅱの内容をさらに精密に研究し、指導研究者の指導に基づいて、修士論文作成の準備に取り組む。
到達目標	各自の研究テーマについて、修士論文に向けて明確な方向性をもつ。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導研究者の指導の下、各自の研究テーマを修士論文の作成に向け効果的な指導をする。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	論文執筆に必要な文献、資料の探し方から、その資料価値の判断の仕方、読み方、使い方を指導する。
到達目標	必要な資料コーパスを知り、使えるようにする。
授業方法と留意点	量より質を求める。
授業 (指導) 計画	基本的な文献を読んだうえで、論文執筆にそれをどう活かすかを指導する。
事前・事後学習課題	量より質を重んじるので、いかに調べ、どのように考え、何をどう書くか。
評価基準	授業参加度と提出物による。
教材等	未定
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ、Ⅱの内容をさらに精密に研究し、指導研究者の指導に基づいて、修士論文作成の準備に取り掛かる。
到達目標	各自の研究テーマについて、修士論文に向けて明確な方向性を持つ。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導研究者のもと、各自の研究テーマを修士論文の作成に向けて効果的な指導をする。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	西川 真由美

授業 (指導) 概要・目的	各指導研究者のもと、基礎文献、参考文献など、適切な選択をしたうえで各自のテーマを自分の視点で論文として完成することを目指す。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	修士論文が完成できるよう、論文の中間発表、完成原稿の校正など、指導研究者との綿密で検討可能な計画を設定する。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	ショー ン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの 基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。
到達目標	毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	テキスト全体、言語や画像、それぞれの機能を分析し、意味創出の原理を学ぶ。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	欧米言語文化研究総合演習 III で行った研究調査をさらに精査し、研究指導計画にもとづいて、修士論文を作成し完成させる。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	中間発表や完成原稿の綿密な検討など行い、完成度の高い修士論文を執筆する。
授業 (指導) 計画	第1回目-第15回目：先行研究の検討や収集した具体例にもとづいて、指導担当者と討論を行い、修士論文の内容をより妥当性のあるものにしていく。中間発表、完成原稿の検討を重ねて、修士論文を完成させる。
事前・事後学習課題	事前：文献の渉猟と読み込み、具体例の収集など、修士論文作成に必要な作業を各自で行う。 事後：指導担当者との討論を受けて、問題点などを修正する。
評価基準	授業中のプレゼンテーション、中間発表、修士論文で総合的に評価する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ (2015年度入学者用) 英米言語文化研究総合演習Ⅳ (2014年度以前入学者用)	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV (2015年度入学者用) Seminar on English Language and CulturesIV (2014年度以前入学者用)
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	家口 美智子

授業 (指導) 概要・目的	本講義は修士論文執筆を完成させたものを推敲する作業を行う。
到達目標	オリジナリティのある学術論文を書き上げる。 洗練された論文で使用される英文の書き方を習得する。
授業方法と留意点	個別指導を行う。
授業 (指導) 計画	① 欧米言語文化研究総合演習Ⅳ で執筆した論文を口頭発表する。 ② ①で出たコメントに基づいて、論文を書き直す。 ③ 英文を母語話者にチェックしてもらう。
事前・事後学習課題	授業中指示する。
評価基準	論文と口頭試問を総合して評価する。
教材等	授業で配布する。
備考	学会発表を目指しましょう。

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	各指導研究者の下、基礎文献・参考文献等、適切な選択をした上で各自のテーマを自分の視点で論文として完成することを目指す。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	修士論文が完成できるよう、論文の中間発表、完成原稿の校正等、指導研究者との綿密な検討可能な計画を設定する。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	論文執筆に必要な文献、資料の探し方から、その資料価値の判断の仕方、読み方、使い方を指導する。
到達目標	必要な資料コーパスを知り、使えるようにする。
授業方法と留意点	量より質を求める。
授業 (指導) 計画	基本的な文献を読んだうえで、論文執筆にそれをどう活かすかを指導する。
事前・事後学習課題	量より質を重んじるので、いかに調べ、どのように考え、何をどう書くか。
評価基準	授業参加度と提出物による。
教材等	未定
備考	

科目名	欧米言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Western Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業 (指導) 概要・目的	各指導研究者のもと、基礎文献、参考文献など、適切な選択をしたうえで各自のテーマを自分の視点で論文として完成することを目指す。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	各指導研究者の指示に従う。
授業 (指導) 計画	修士論文が完成できるよう、論文の中間発表、完成原稿の校正など、指導研究者との綿密で検討可能な計画を設定する。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導研究者の指示に従う。
教材等	各指導研究者の指示に従う。
備考	

科目名	アジア言語文化特論 I A (中国文学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures I A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	倉橋 幸彦

授業 (指導) 概要・目的	前期授業のAでは、一九世紀半ば以降の近現代上海の文学・文化を、「租界」「小報」をキーワードに検討し、その実相を把握することをめざす。
到達目標	複雑な近現代中国文学、文化のあり方が上海を軸に理解できることをめざす。
授業方法と留意点	大学院の授業であるから、教科書などの予習復習を十分におこなうほか、自主的に参考文献を図書館などで探し調査閲覧すること。
授業 (指導) 計画	教科書のほか授業概要・目的の内容とあう論文を選び、講読していく。その過程で、ビデオなど視聴覚資料も鑑賞する。
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ通読し、内容をまとめておくこと。重要な事項は事前に調べておくこと。
評価基準	受講状況およびレポート。
教材等	倉橋幸彦『租界上海紙巧図』(好文出版)
備考	

科目名	アジア言語文化特論 I B (中国文学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures I B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	倉橋 幸彦

授業 (指導) 概要・目的	後期授業のBでは、前期の上海を受けて一九世紀半ば以降の近現代北京の文学・文化を、「老舎」「胡同」をキーワードに検討し、その実相を把握することをめざす。
到達目標	複雑な近現代中国文学、文化のあり方が北京を軸に理解できることをめざす。
授業方法と留意点	大学院の授業であるから、教科書などの予習復習を十分におこなうほか、自主的に参考文献を図書館などで探し調査閲覧すること。
授業 (指導) 計画	授業概要・目的の内容とあう論文を選び、講読していく。その過程で、ビデオなど視聴覚資料も鑑賞する。
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ通読し、内容をまとめておくこと。重要な事項は事前に調べておくこと。
評価基準	受講状況およびレポート
教材等	プリント教材
備考	

科目名	アジア言語文化特論Ⅱ A (日中比較文化)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures II A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	中国と日本の近現代文学を演劇を中心に比較研究する。比較の対象は近現代文学演劇の成立期、発展期、第二次世界大戦後の前衛芸術などさまざまである。この講義では、日本と中国の各時期の特徴的な傾向を比較し、その共通点と相違点を探る。		
到達目標	日・中近現代文学演劇の共通点と相違点が理解できる。		
授業方法と留意点	大学院の授業であるから、予習を必ずしてこること。		
授業 (指導) 計画	授業概要・目的の内容とあう論文を選び、講読していく。その過程で、ビデオなど視聴覚資料も鑑賞する。		
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ通読し、内容をまとめておくこと。重要な事項は事前に調べておくこと。		
評価基準	受講状況およびレポート		
教材等	瀬戸宏『中国演劇の二十世紀』(東方書店) およびプリント		
備考			

科目名	アジア言語文化特論Ⅱ B (日中比較文化)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures II B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	東アジア言語文化特論Ⅱ A (前期) の授業内容を発展させ、引き続き日中比較文学について考えていく。		
到達目標	日中比較文学の共通点と相違点が理解できる。		
授業方法と留意点	大学院の授業であるから、予習を必ずしてこること。		
授業 (指導) 計画	授業概要・目的の内容とあう論文を選び、講読していく。その過程で、ビデオなど視聴覚資料も鑑賞する。		
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ通読し、内容をまとめておくこと。重要な事項は事前に調べておくこと。		
評価基準	受講状況およびレポート		
教材等	瀬戸宏『中国演劇の二十世紀』(東方書店) およびプリント		
備考			

科目名	アジア言語文化特論Ⅲ A (比較言語学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures III A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	この授業では、ヨーロッパにおいて始まった比較言語学の歴史を概観し、その後他の地域の言語に対してどのように応用されてきたかを概観する、また、研究方法を紹介する。さらに音韻対応、故地等の比較言語学で扱われるテーマについても紹介する。語彙統計学、言語年代学についても基礎的な説明を行う。
到達目標	言語学の一分野である比較言語学に関する基本的知識の習得できる。
授業方法と留意点	授業中に受講者の意見を求めるので、意欲的に発言してもらいたい。
授業 (指導) 計画	先ず、比較言語学の歴史、発展を概観する。その後、比較言語学の研究方法の基礎、関連するテーマを説明する。
事前・事後学習課題	指示された予習、復習を必ずするように。 最終回の発表に備え、準備を行っておくこと。
評価基準	授業中の発言および発表。
教材等	プリントを用意する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論Ⅲ B (比較言語学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures III B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	オーストロネシア語族、西部マライポリネシア語派の言語を例に比較言語学の目的である祖語の再構 (再建) を行う。さらに比較言語学に基づいて言語の系統についての研究を行う。なお、比較言語学以外にも対照言語学、言語人類学等の周辺分野についても説明する。
到達目標	比較言語学の基本的な作業である音韻比較、祖語の再構 (再建) についての知識を習得できる。 比較言語学の周辺分野についても知識を得ることができる。
授業方法と留意点	授業中に受講者の意見を求めるので、意欲的に発言してもらいたい。
授業 (指導) 計画	オーストロネシア語族・西部マライポリネシア語派に属する言語についての知識を得た上で、実際に祖語の再建を行う。また、適宜周辺分野に付いての説明を行う。
事前・事後学習課題	指示された予習、復習を必ずするように。 最終回の発表に備え、準備を行っておくこと。
評価基準	授業中の発言および発表。
教材等	プリントを用意する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論ⅣA (日本文学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures IV A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	日本の言語文化をかたちづくる本質的特性を把握するうえで、文学領域に対する理解は不可欠である。日本における伝統的なものの形成について、典型的な作品の読解を通じてその認識を深め、自ら論理化・言語化する力を養成する。日本の文学作品が中心となるが、東アジアや欧米の作品も視野に入れつつ、比較文化史的な視点からすすめていきたい。
到達目標	日本の文学伝統の総合的把握と、個別作品に対する読解力の養成。
授業方法と留意点	とりあげる作品については、受講生の関心に即して設定する。
授業 (指導) 計画	1 対象とするテキストの設定 2 作品の全体像の把握 (古典作品の場合は現代語訳・入門書等を参照する) 3 読解対象とする個所の絞り込み 4 作品研究に有益な文献・論文の収集と読み込み 5 独自のテーマにもとづくレポートの作成
事前・事後学習課題	上記の流れに即して、課題を提出する。 作品読解の範囲の割り当てに即して、事前調査 (語彙の解釈、文意の検討) を行う。
評価基準	受講態度およびレポートによる評価。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論ⅣB (日本文学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures IV B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	日本の言語文化をかたちづくる本質的特性を把握するうえで、文学領域に対する理解は不可欠である。日本における伝統的なものの形成について、典型的な作品の読解を通じてその認識を深め、自ら論理化・言語化する力を養成する。日本の文学作品が中心となるが、東アジアや欧米の作品も視野に入れつつ、比較文化史的な視点からすすめていきたい。
到達目標	日本の文学伝統の総合的把握と、個別作品に対する読解力の養成。
授業方法と留意点	とりあげる作品については、受講生の関心に即して設定する。
授業 (指導) 計画	1 対象とするテキストの設定 2 作品の全体像の把握 (古典作品の場合は現代語訳・入門書等を参照する) 3 読解対象とする個所の絞り込み 4 作品研究に有益な文献・論文の収集と読み込み 5 独自のテーマにもとづくレポートの作成
事前・事後学習課題	上記の流れに即して、課題を提出する。 作品読解の範囲の割り当てに即して、事前調査 (語彙の解釈、文意の検討) を行う。
評価基準	受講態度およびレポートによる評価。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論 V A (日本語学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures V A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	橋本 正俊

授業 (指導) 概要・目的	日本語学に関する様々な文献を取り上げて論じる。 特に上代から中世 (8世紀から14世紀) の国語資料及び国語学資料を取り上げる。また、研究文献も取り上げて、日本語研究の問題点について考察する。 日本語史についての正確な知識を得ることを目的とする。
到達目標	様々な日本語文献について説明できるようになる。
授業方法と留意点	資料及び文献を講読し、論じる。そこから諸問題を取り上げて、意見交換をする。
授業 (指導) 計画	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の紹介と講読 ・研究文献の紹介と講読 ・上記についての意見交換 これらを繰り返す。
事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講読予定の資料を通読の上、疑問点をまとめておく。事後に資料を再読しレポートに備える。 ・レポートの作成。 (合計 30h)
評価基準	受講状況およびレポート等により総合的に評価する。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論 V B (日本語学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures V B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	橋本 正俊

授業 (指導) 概要・目的	日本語学に関する様々な文献を取り上げて論じる。 特に中世から近代 (15世紀から19世紀) の国語資料及び国語学資料を取り上げる。また、研究文献も取り上げて、日本語研究の問題点について考察する。 日本語史についての正確な知識を得ることを目的とする。
到達目標	様々な日本語文献について説明できるようになる。
授業方法と留意点	資料及び文献を講読し、論じる。そこから諸問題を取り上げて、意見交換をする。
授業 (指導) 計画	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の紹介と講読 ・研究文献の紹介と講読 ・上記についての意見交換 これらを繰り返す。
事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講読予定の資料を通読の上、疑問点をまとめておく。事後に資料を再読しレポートに備える。 ・レポートの作成。 (合計 30h)
評価基準	受講状況およびレポート等により総合的に評価する。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論VIA (日本語教育)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures VI A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	門脇 薫

授業 (指導) 概要・目的	第2言語としての日本語の習得研究の観点から、日本語教育に関わる種々の問題を見ていく。具体的には、第2言語習得 (Second Language Acquisition: SLA) の理論、外国人学習者の日本語の習得過程、日本語の習得研究、第2言語習得研究と日本語指導等について取り上げる。
到達目標	言語習得研究、及び語学教育に関する知識を得、日本語及び資料を分析する力を養う。
授業方法と留意点	文献及び資料を講読し、諸問題について討論する。また各自の課題発表について意見交換を行う。
授業 (指導) 計画	文献及び資料の講読・討論・課題に関する調査分析及び発表
事前・事後学習課題	指定された文献及び資料を読み、論点を把握し授業で議論ができるよう自分なりの考えをまとめておく。発表担当者はレジュメを作成し発表準備を行う。授業後は授業での意見交換した内容をふまえてまとめのレポートを書く。(合計 30h)
評価基準	授業における討論・発表・レポート等により総合的に評価する。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化特論VIB (日本語教育)	科目名 (英文)	Topics in Asian Languages and Cultures VI B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	門脇 薫

授業 (指導) 概要・目的	第2言語としての日本語の習得研究の観点から、日本語教育に関わる種々の問題を見ていく。具体的には、第2言語習得 (Second Language Acquisition: SLA) の理論、外国人学習者の日本語の習得過程、日本語の習得研究、第2言語習得研究と日本語指導等について取り上げる。
到達目標	言語習得及び語学教育に関する知識を得、日本語及び資料を分析する力を養う。
授業方法と留意点	文献及び資料を講読し、諸問題について討論する。また各自の課題発表について意見交換を行う。
授業 (指導) 計画	文献及び資料の講読・討論・課題に関する調査分析及び発表
事前・事後学習課題	関連するテーマについて文献・資料収集を行う。授業前に文献及び資料を読み、論点を把握し授業で議論ができるよう自分なりの考えをまとめておく。発表担当者はレジュメを作成し発表準備を行う。授業後は授業での意見交換した内容をふまえてまとめのレポートを書く。(合計 30h)
評価基準	授業における討論・発表・レポート等により総合的に評価する。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア地域文化特論ⅡA (文化人類学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Regions and Cultures II A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	上田 達

授業 (指導) 概要・目的	文化人類学における理解がどのようなものであるかを示すことを、講義の主たる目的とする。まず、初期の文化人類学から今日にいたる学問の歴史を俯瞰しつつ、そのなかで採用されてきた理解の枠組みを素描する。そのうえで、受講者の関心も聞きながら具体的なトピックを選んで、その民族誌的な成果や意義について検討する。 授業は主に講義形式で行う。参考となる文献をあらかじめ配布するので、読んできたことを前提として内容について解説と補足を行う。また、受講者には文献の内容について報告する機会を適宜設ける。参考文献の詳細は初回の授業時に指示するが、中心となるのは以下のものである。
到達目標	文化人類学的なものの見方ができるようになることと、自らそれを用いて考えられるようになることを目指す。
授業方法と留意点	講義と受講者との文献の講読を進める。文献は日本語のものと英語のものを用いる。受講者には事前と事後の課題を出すので、積極的に取り組むことが求められる。
授業 (指導) 計画	1. イントロダクション 2. 文化人類学のはじまり 3. 文化人類学の展開 4. 事例研究---親族 5. 事例研究---呪術と宗教 6. 文化人類学の展開 7. 事例研究---贈与、経済 8. 文化人類学の展開 9. 文化人類学と植民地主義 10. 事例研究---政治 11. 文化人類学の洗練 12. 事例研究---儀礼 13. 文化人類学と近代社会 14. 事例研究---都市 15. まとめ
事前・事後学習課題	事前：受講者は指定する文献 (和文・英文) を予め読んでくること。授業時に文献に記されていることへの理解度を問う課題を出す。事後：既習事項を確認するとともに、講義中に言及した文献の該当箇所について読むこと。
評価基準	授業への参加とレポートによる。詳細は初回の授業時に指示する。
教材等	授業時に配布する資料を用いる。参考文献については初回に詳細を指示する。
備考	

科目名	アジア地域文化特論ⅡB (文化人類学)	科目名 (英文)	Topics in Asian Regions and Cultures II B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	上田 達

授業 (指導) 概要・目的	文化人類学における理解がどのようなものであるかを示すことを、講義の主たる目的とする。いくつかの現代的なトピックを検討することを通じて、文化人類学の理解の特質や現代におけるその意義を示す。 授業は講義を中心とする。参考となる文献をあらかじめ配布するので、読んできたことを前提として内容について解説と補足を行う。また、受講者には内容について報告する機会を設ける。
到達目標	文化人類学的なものの見方ができるようになることと、自らそれを用いて考えられるようになることを目指す。
授業方法と留意点	講義と受講者との文献の講読を進める。文献は日本語のものと英語のものを用いる。受講者には事前と事後の課題を出すので、積極的に取り組むことが求められる。
授業 (指導) 計画	1. イントロダクション 2. 文化人類学のはじまり 3. 文化人類学の展開 4. 事例研究---親族 5. 事例研究---呪術と宗教 6. 文化人類学の展開 7. 事例研究---贈与、経済 8. 文化人類学の展開 9. 文化人類学と植民地主義 10. 事例研究---政治 11. 文化人類学の洗練 12. 事例研究---儀礼 13. 文化人類学と近代社会 14. 事例研究---都市 15. まとめ
事前・事後学習課題	事前：受講者は指定する文献 (和文・英文) を予め読んでくること。授業時に文献に記されていることへの理解度を問う課題を出す。事後：既習事項を確認するとともに、講義中に言及した文献の該当箇所について読むこと。
評価基準	授業への参加とレポートによる。詳細は初回の授業時に指示する。
教材等	授業時に配布する資料を用いる。参考文献については初回に詳細を指示する。
備考	

科目名	アジア地域文化特論Ⅲ A (美術史)	科目名 (英文)	Topics in Asian Regions and Cultures III A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どうい う社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本 の美術や文化を知ることは、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。
授業 (指導) 計画	1～2回：奈良時代の美術 法隆寺、東大寺、興福寺 2～5回：平安時代の美術 密教美術、絵巻物、平等院 6～7回：鎌倉時代の美術 運慶、似絵、絵巻物 8回：室町時代の美術 水墨画、雪舟 9回：桃山時代の美術 金碧障壁画、狩野永徳 10～15回：江戸時代の美術 琳派、狩野派、浮世絵
事前・事後学習課題	事前：毎回、次の回の教材を渡すので、事前にその時代の歴史を調べておく。また取り上げる美術作品をWEBや本で見ておく。(毎 回90分) 事後：講義に出てきた作品の画像を集め、ノートをまとめる。不明な点を調べる。
評価基準	レポート
教材等	そのつどプリントを渡す
備考	京都・奈良の寺院や展覧会に足を運び、本物の美術に触れることを勧めます。

科目名	アジア地域文化特論Ⅲ B (美術史)	科目名 (英文)	Topics in Asian Regions and Cultures III B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どうい う社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本 の美術や文化を知ることは、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。
授業 (指導) 計画	1～2回：奈良時代の美術 法隆寺、東大寺、興福寺 2～5回：平安時代の美術 密教美術、絵巻物、平等院 6～7回：鎌倉時代の美術 運慶、似絵、絵巻物 8回：室町時代の美術 水墨画、雪舟 9回：桃山時代の美術 金碧障壁画、狩野永徳 10～15回：江戸時代の美術 琳派、狩野派、浮世絵
事前・事後学習課題	事前：毎回、次の回の教材を渡すので、事前にその時代の歴史を調べておく。また取り上げる美術作品をWEBや本で見ておく。(毎 回90分) 事後：講義に出てきた作品の画像を集め、ノートをまとめる。不明な点を調べる。
評価基準	レポート
教材等	そのつどプリントを渡す
備考	京都・奈良の寺院や展覧会に足を運び、本物の美術に触れることを勧めます。

科目名	アジア地域文化特論 V A (日本地誌)	科目名 (英文)	Topics in Asian Regions and Cultures V A
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	原 秀禎

授業 (指導) 概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> この講義では、東アジア地域の中から「日本」を取り上げ、日本の地域性について分析する。 日本を、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州地方に分けて、それぞれの地域が持つ特色をまとめる。 前期では北海道・東北・関東・中部地方について、地誌的資料をもとに分析していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域性について、各地方ごとの特色を総括する。 前期は、北海道・東北・関東・中部の4地方の地域性を理解する。
授業方法と留意点	講義を中心に、地誌的資料をもとに各j地方について分析していく。
授業 (指導) 計画	各地方ごとに、以下の順序で分析していく。 ①歴史的背景 ②自然的基礎 ③人口 ④村落 ⑤第一次産業 ⑥第二次産業 ⑦都市 ⑧交通 ⑨観光 ⑩地域区分
事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 事前に各回の資料を配付するので、講義前に熟読し、問題点を整理しておく。 各回の講義終了後には、その内容をまとめ、レポートとして次回の講義時に提出する。
評価基準	レポート内容と講義への取り組み姿勢によって総合的に評価する。
教材等	適宜、講義中に配布する。
備考	

科目名	アジア地域文化特論 V B (日本地誌)	科目名 (英文)	Topics in Asian Regions and Cultures V B
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	原 秀禎

授業 (指導) 概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> この講義では、東アジア地域の中から「日本」を取り上げ、日本の地域性について分析する。 日本を、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州地方に分けて、それぞれの地域が持つ特色をまとめる。 後期では近畿・中国・四国・九州の各地方について、地誌的資料をもとに分析していく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域性について、各地方ごとの特色を総括する。 後期は、近畿・中国・四国・九州の4地方を取り上げ、各地方を地域性を理解する。
授業方法と留意点	講義を中心に、地誌的資料をもとに各j地方について分析していく。
授業 (指導) 計画	各地方ごとに、以下の順序で分析する。 ①歴史的背景 ②自然的基礎 ③人口 ④村落 ⑤第一次産業 ⑥第二次産業 ⑦都市 ⑧交通 ⑨観光 ⑩地域区分
事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 事前に各回の資料を配付するので、講義前に熟読し、問題点を整理しておく。 各回の講義終了後には、その内容をまとめ、レポートとして次回の講義時に提出する。
評価基準	レポート内容と講義への取り組み姿勢によって総合的に評価する。
教材等	適宜、講義中に配布する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅰ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	入学当初に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各指導教員の指導のもとに研究倫理のあり方を理解し、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行ない、討論・発表を通じて、研究遂行に必要な諸技能を修得する。
到達目標	修士論文作成のための下準備。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅰ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行なう。
到達目標	研究遂行に必要な諸技能を修得する。
授業方法と留意点	発表、質疑応答、意見交換を行う。
授業 (指導) 計画	各自のテーマに応じて、研究を進める。
事前・事後学習課題	充分時間をかけ指示された予習、復習をすること。
評価基準	平常点と発表。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅰ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	入学時に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行い、討論・発表を通じて、研究遂行に必要な諸技能を修得する。
到達目標	研究方法の体得と修士論文作成のための下準備。
授業方法と留意点	各授業時の指示に従う。
授業 (指導) 計画	1 テーマの設定 2 文献・論文の収集と読み込み 3 研究の経過報告と論構成の練成 4 修士論文の構想
事前・事後学習課題	1～4の流れに即して授業時に指示する。
評価基準	研究状況および修士論文構想の内容による。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅰ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	門脇 薫

授業 (指導) 概要・目的	入学当初に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各指導教員の指導のもとに、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行ない、討論・発表を通じて、研究遂行に必要な諸技能を修得する。
到達目標	修士論文作成のための下準備。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	各指導教員の指示による。
備考	【指導担当者】 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、山口 真佐夫、門脇 薫

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅰ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	この講義では奈良時代から江戸時代にいたる日本美術を鑑賞し、文献を講読する。毎時間、代表的な美術作品を1点取り上げ、どういふ社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法の特徴などについて解説する。取り上げる分野は彫刻、絵画、工芸、建築などで、歴史的背景や作者の略歴についても紹介する。また 授業期間中に適宜、寺院、神社、美術館を実地見学し、美術作品や作品の生まれた空間を体感する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。
到達目標	日本の美術に関する知識を会得し、日本人の感性に対する理解を深める。
授業方法と留意点	講義、スライドによる美術資料の鑑賞、美術館や寺院などに実地見学。
授業 (指導) 計画	1 オリエンテーション 2 奈良時代の仏像 3 平安時代の仏像 4 時代の絵巻物 5 鎌倉時代の彫刻 6 鎌倉時代の絵巻物 7 鎌倉時代の肖像画 8 室町時代の水墨画 9 桃山時代の障屏画 10 江戸時代の琳派画 11 江戸時代の写生画 12 江戸時代の文人画 13 江戸時代の浮世絵 14 実地見学 15 まとめ
事前・事後学習課題	”【事前学習】図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて調べをしておいてください。WEBでもかまいません(各90分)。 【事後学習】積極的に美術館・博物館・寺院・神社などに出かけ、授業に登場した美術品を実際にみるよう努めてください(各90分)。”
評価基準	受講態度 (50%) とレポート (50%)。
教材等	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を継続し、討論・発表等を通じて、より次元の高い研究技法の習得と研究能力の向上に努める。
到達目標	修士論文作成のための下準備。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	各指導教員の指示による。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行なう。
到達目標	研究遂行に必要な諸技能を修得する。
授業方法と留意点	発表、質疑応答、意見交換を行う。
授業 (指導) 計画	各自のテーマに応じて、研究を進める。
事前・事後学習課題	充分時間をかけ指示された予習、復習をすること。
評価基準	平常点と発表。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	入学時に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行い、討論・発表を通じて、研究遂行に必要な諸技能を修得し、修士論文を完成させる。
到達目標	修士論文の完成に向けて、論文執筆の具体的方法を修得する。
授業方法と留意点	授業時に指示する。
授業 (指導) 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 修士論文の構想の確認 2 文献の調査・収集 3 論構成の練成 4 論文内容の添削指導 5 推敲・完成
事前・事後学習課題	1～5の流れに即して指示する。
評価基準	研究状況および修士論文の完成度による。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	門脇 薫

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を継続し、討論・発表等を通じて、より次元の高い研究技法の習得と研究能力の向上に努める。
到達目標	修士論文作成のための下準備。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	各指導教員の指示による。
備考	【指導担当者】 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅱ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	この講義では奈良時代から江戸時代にいたる日本美術を鑑賞し、文献を講読する。毎時間、代表的な美術作品を1点取り上げ、どうい社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法の特徴などについて解説する。取り上げる分野は彫刻、絵画、工芸、建築などで、歴史的背景や作者の略歴についても紹介する。また 授業期間中に適宜、寺院、神社、美術館を实地見学し、美術作品や作品の生まれた空間を体感する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。
到達目標	日本の美術に関する知識を会得し、日本人の感性に対する理解を深める。
授業方法と留意点	講義、スライドによる美術資料の鑑賞、美術館や寺院などに实地見学。
授業 (指導) 計画	1 オリエンテーション 2 奈良時代の仏像 3 平安時代の仏像 4 時代の絵巻物 5 鎌倉時代の彫刻 6 鎌倉時代の絵巻物 7 鎌倉時代の肖像画 8 室町時代の水墨画 9 桃山時代の障屏画 10 江戸時代の琳派画 11 江戸時代の写生画 12 江戸時代の文人画 13 江戸時代の浮世絵 14 实地見学 15 まとめ
事前・事後学習課題	”【事前学習】図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて下調べをしておいてください。WEBでもかまいません (各90分)。 【事後学習】積極的に美術館・博物館・寺院・神社などに出かけ、授業に登場した美術品を実際にみるよう努めてください (各90分)。”
評価基準	受講態度 (50%) とレポート (50%)。
教材等	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ・Ⅱをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を深め、各指導教員の指導のもとに、修士論文を作成する。
到達目標	修士論文の作成。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	【事前】資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
事前・事後学習課題	各指導教員の指示に従う。
評価基準	各指導教員の指示による。
教材等	各指導教員の指示に従う。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	研究資料の分析を行ない、修士論文の執筆を開始する。
到達目標	研究資料の基本的な分析を終え、修士論文の執筆を開始。
授業方法と留意点	発表、質疑応答、意見交換を行う。
授業 (指導) 計画	資料の分析を行う。修士論文の執筆指導を行う。
事前・事後学習課題	充分時間をかけ指示された予習、復習をすること。
評価基準	平常点と発表。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ・Ⅱをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を深め、修士論文を作成する。
到達目標	修士論文の作成。
授業方法と留意点	授業時に指示する。
授業 (指導) 計画	1 修士論文の構想の確認 2 文献の調査・収集 3 論構成の練成 4 論文内容の添削指導
事前・事後学習課題	授業時に指示する。
評価基準	研究の進展状況による。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	門脇 薫

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ・Ⅱをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を深め、各指導教員の指導のもとに、修士論文を作成する。
到達目標	修士論文の作成。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	各指導教員の指示による。
備考	【指導担当者】 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅲ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures III
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	この講義では奈良時代から江戸時代にいたる日本美術を鑑賞し、文献を講読する。毎時間、代表的な美術作品を1点取り上げ、どう いう社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法の特徴などについて解説する。取り上げる分野 は彫刻、絵画、工芸、建築などで、歴史的背景や作者の略歴についても紹介する。また 授業期間中に適宜、寺院、神社、美術館を実地 見学し、美術作品や作品の生まれた空間を体感する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。
到達目標	日本の美術に関する知識を会得し、日本人の感性に対する理解を深める。
授業方法と留意点	講義、スライドによる美術資料の鑑賞、美術館や寺院などに実地見学。
授業 (指導) 計画	1 オリエンテーション 2 奈良時代の仏像 3 平安時代の仏像 4 時代の絵巻物 5 鎌倉時代の彫刻 6 鎌倉時代の絵巻物 7 鎌倉時代の肖像画 8 室町時代の水墨画 9 桃山時代の障屏画 10 江戸時代の琳派画 11 江戸時代の写生画 12 江戸時代の文人画 13 江戸時代の浮世絵 14 実地見学 15 まとめ
事前・事後学習課題	”【事前学習】図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについ て下調べをしておいてください。WEBでもかまいません(各90分)。 【事後学習】積極的に美術館・博物館・寺院・神社などに出かけ、授業に登場した美術品を実際にみるよう努めてください(各90分)。 ”
評価基準	受講態度 (50%) とレポート (50%)。
教材等	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにもとづき、各自が設定した課題についての集大成として、各指導教員の指導のもとに、修士論文を完成させる。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	各指導教員の指示による。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	修士論文の執筆指導を中心に、研究内容の充実を目指す。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	発表、質疑応答、意見交換を行う。修士論文の校正指導。
授業 (指導) 計画	修士論文の執筆指導を行う。
事前・事後学習課題	充分時間をかけ指示された予習、復習をすること。
評価基準	修士論文。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにもとづき、各自が設定した課題についての集大成として、修士論文を完成させる。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	授業時に指示する。
授業 (指導) 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 修士論文の構想の確認 2 文献の調査・収集 3 論構成の練成 4 論文内容の添削指導 5 推敲・完成
事前・事後学習課題	授業時に指示する。
評価基準	研究状況および修士論文の完成度による。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	門脇 薫

授業 (指導) 概要・目的	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにもとづき、各自が設定した課題についての集大成として、各指導教員の指導のもとに、修士論文を完成させる。
到達目標	修士論文の完成。
授業方法と留意点	各指導教員の指示に従う。
授業 (指導) 計画	各指導教員の指示に従う。
事前・事後学習課題	【事前】 資料収集・論文作成など各自で必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。
評価基準	各指導教員の指示に従う。
教材等	各指導教員の指示による。
備考	【指導担当者】 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫

科目名	アジア言語文化研究総合演習Ⅳ	科目名 (英文)	Seminar on Asian Languages and Cultures IV
配当年次	2	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	この講義では奈良時代から江戸時代にいたる日本美術を鑑賞し、文献を講読する。毎時間、代表的な美術作品を1点取り上げ、どうい社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法の特徴などについて解説する。取り上げる分野は彫刻、絵画、工芸、建築などで、歴史的背景や作者の略歴についても紹介する。また 授業期間中に適宜、寺院、神社、美術館を实地見学し、美術作品や作品の生まれた空間を体感する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。
到達目標	日本の美術に関する知識を会得し、日本人の感性に対する理解を深める。
授業方法と留意点	講義、スライドによる美術資料の鑑賞、美術館や寺院などに实地見学。
授業 (指導) 計画	1 オリエンテーション 2 奈良時代の仏像 3 平安時代の仏像 4 時代の絵巻物 5 鎌倉時代の彫刻 6 鎌倉時代の絵巻物 7 鎌倉時代の肖像画 8 室町時代の水墨画 9 桃山時代の障屏画 10 江戸時代の琳派画 11 江戸時代の写生画 12 江戸時代の文人画 13 江戸時代の浮世絵 14 实地見学 15 まとめ
事前・事後学習課題	”【事前学習】図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて下調べをしておいてください。WEBでもかまいません (各90分)。 【事後学習】積極的に美術館・博物館・寺院・神社などに出かけ、授業に登場した美術品を実際にみるよう努めてください (各90分)。”
評価基準	受講態度 (50%) とレポート (50%)。
教材等	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名	上級英語 I	科目名 (英文)	Advanced English I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	ショー ン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	会話、討論における言語能力とともに、文章作成能力の向上をはかる。授業ではエッセイを読みこなす力を養う。語彙力の増進と、基本的な文章の作成とともに、各自の関心のある課題にそって、レポートを作成し、発表を行う 技術の習得に力点をおく。
到達目標	毎週の授業では実践英語の上達過程とし、語彙力をあげる訓練とショートエッセイの読みや、作成に取り組む。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	各自作成したレポートのプレゼンテーションの効果的な技法をまなび、発表する。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	上級英語 I	科目名 (英文)	Advanced English I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	鳥居 祐介

授業 (指導) 概要・目的	英語による研究資料や論文の読解、および論文執筆の実践演習を行う。
到達目標	英語による修士論文の作成に必要な英語力を養う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指導可能な分野と、受講生の専攻分野やテーマが重なる英語文献を学期の序盤にリストアップし、英作文の指導やディスカッションを行いながら読み進める。学期終盤には小論文を作成する。 ・この授業の担当教員の専攻はアメリカ研究 (American Studies) であり、英語指導が可能な分野は主として北米地域研究、あるいは文化研究一般となる。受講を検討する学生は、自分の研究関心、専攻分野や研究テーマと教員の指導分野に関連があるかどうかを、あらかじめ相談して確認しておくこと。
授業 (指導) 計画	初回授業において、担当教員の指導可能な分野と受講生のニーズが合致する英語文献のリストアップを行い、リーディングリストを作成する。第二回以降は、リストに従ったリーディングと、リーディングに基づいたライティングの演習またはディスカッションを行う。学期末には小論文を作成し、提出する。リーディングリストは随時改定する。
事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、指定のリーディングについての疑問やコメントを用意して授業に臨むこと。 ・リーディングに基づいた英作文等の与えられた課題をスケジュール通りに提出すること。
評価基準	平常評価 70% + 学期末に提出する小論文 30%
教材等	初回授業で選定する
備考	研究室は 7 号館 3 階

科目名	上級英語 I	科目名 (英文)	Advanced English I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業 (指導) 概要・目的	専門的な文献や時事問題などの資料を読み解きながら、大学院生として必要な英会話力や討論力、英語による発表力、およびレポート作成に必要な英作文力の向上を目指す。専門的な語彙力の増進と、基本的な文章の作成とともに、各自の関心あるテーマにそって、レポートを作成し、発表を行う。
到達目標	英語で専門的なレベルの文献や資料を読み理解できるようになる。 英語を用いて専門的な内容の発表ができるようになる。 英語で専門的な内容の、まとまった文章を書けるようになる。
授業方法と留意点	なるべく英語を使用して授業を進めていくので、予習は必須である。しっかりと準備をして臨んでほしい。
授業 (指導) 計画	第1回：オリエンテーション、今後の課題の確認など。 第2回～第7回目：英語文献の読解、内容についての英語による討論、レポートの作成など。 第8回目：英語による中間発表 第9回目～第14回：英語文献の読解、内容についての英語による討論、レポートの作成など。 第15回目：最終プレゼンテーション
事前・事後学習課題	【事前】 文献の読み込み、発表の準備など 【事後】 指導者が指摘した問題点など改善し、扱ったトピックについてより高い理解を目指す。
評価基準	中間発表、最終プレゼンテーション、最終レポートなどを総合的に判断する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	上級英語 II	科目名 (英文)	Advanced English II
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	シヨーン マクガバン

授業 (指導) 概要・目的	会話、討論における言語能力とともに、文章作成能力の向上をはかる。授業ではエッセイを読みこなす力を養う。語彙力の増進と、基本的な文章の作成とともに、各自の関心のある課題にそって、レポートを作成し、発表を行う 技術の習得に力点を置く。
到達目標	毎週の授業では実践英語の上達過程とし、語彙力をあげる訓練とショートエッセイの読みや、作成に取り組む。
授業方法と留意点	授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。
授業 (指導) 計画	各自作成したレポートのプレゼンテーションの効果的な技法をまなび、発表する。
事前・事後学習課題	授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。
評価基準	クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%
教材等	プリント
備考	

科目名	上級英語Ⅱ	科目名(英文)	Advanced EnglishⅡ
配当年次	1	単位数	1
学期(開講期)	半期	授業担当者	鳥居 祐介

授業(指導)概要・目的	英語による研究資料や論文の読解、および論文執筆の実践演習を行う。
到達目標	英語による修士論文の作成に必要な英語力を養う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指導可能な分野と、受講生の専攻分野やテーマが重なる英語文献を学期の序盤にリストアップし、英作文の指導やディスカッションを行いながら読み進める。学期終盤には小論文を作成する。 ・この授業の担当教員の専攻はアメリカ研究(American Studies)であり、英語指導が可能な分野は主として北米地域研究、あるいは文化研究一般となる。受講を検討する学生は、自分の研究関心、専攻分野や研究テーマと教員の指導分野に関連があるかどうかを、あらかじめ相談して確認しておくこと。
授業(指導)計画	初回授業において、担当教員の指導可能な分野と受講生のニーズが合致する英語文献のリストアップを行い、リーディングリストを作成する。第二回以降は、リストに従ったリーディングと、リーディングに基づいたライティングの演習またはディスカッションを行う。学期末には小論文を作成し、提出する。リーディングリストは随時改定する。
事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、指定のリーディングについての疑問やコメントを用意して授業に臨むこと。 ・リーディングに基づいた英作文等の与えられた課題をスケジュール通りに提出すること。
評価基準	平常評価70% + 学期末に提出する小論文30%
教材等	初回授業で選定する
備考	研究室は7号館3階

科目名	上級英語Ⅱ	科目名(英文)	Advanced EnglishⅡ
配当年次	1	単位数	1
学期(開講期)	半期	授業担当者	住吉 誠

授業(指導)概要・目的	専門的な文献や時事問題などの資料を読み解きながら、大学院生として必要な英会話力や討論力、英語による発表力、およびレポート作成に必要な英作文力の向上を目指す。専門的な語彙力の増進と、基本的な文章の作成とともに、各自の関心あるテーマにそって、レポートを作成し、発表を行う。
到達目標	英語で専門的なレベルの文献や資料を読み理解できるようになる。 英語を用いて専門的な内容の発表ができるようになる。 英語で専門的な内容の、まとまった文章を書けるようになる。
授業方法と留意点	なるべく英語を使用して授業を進めていくので、予習は必須である。しっかりと準備をして臨んでほしい。
授業(指導)計画	第1回：オリエンテーション、今後の課題の確認など。 第2回～第7回：英語文献の読解、内容についての英語による討論、レポートの作成など。 第8回：英語による中間発表 第9回～第14回：英語文献の読解、内容についての英語による討論、レポートの作成など。 第15回：最終プレゼンテーション
事前・事後学習課題	【事前】 文献の読み込み、発表の準備など 【事後】 指導者が指摘した問題点など改善し、扱ったトピックについてより高い理解を目指す。
評価基準	中間発表、最終プレゼンテーション、最終レポートなどを総合的に判断する。
教材等	授業中に指示する。
備考	

科目名	上級中国語 I	科目名 (英文)	Advanced Chinese I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業 (指導) 概要・目的	この授業では自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。講義の素材は新聞雑誌やウェブサイトなどから選び、文法、語彙、発音を詳細に吟味する。文法に関しては基本中国語文法の枠を超え微細な意味の違いに文法がどのように反映しているか、また新生語、流行語の実例を考察する。話題はさまざまだが、その時しか価値のない内容は避けたい。
到達目標	中国の原書の読解力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	テキストを講読してテキストの内容をめぐって講義し、日本語による訳読をおこなう。受講生がネイティブである場合は、正しい日本語に翻訳する訓練を兼ねる。
授業 (指導) 計画	授業では現代中国をめぐってさまざまなことを講義し、2回1テーマで進む。次の話題を取り上げる予定：1 キャンパス・ライン、2 中国人の家庭観念、3 中国の食文化、4 生活観の変化、5 消費の新しい傾向、6 中国人のレジャー、7 職業選択観の変化、8 中国の経済発展、9 交通問題、10 住宅問題、11 人口問題、12 老人問題、13 交際と結婚、14, 15 中国の媒体。
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ読んだうえ、内容を日本語に訳しておくこと。
評価基準	試験成績及び練習への参加。
教材等	私製教材やコピーを配布する。
備考	

科目名	上級中国語 I	科目名 (英文)	Advanced Chinese I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業 (指導) 概要・目的	この授業では自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。北京語言大学出版社の『このように読む (這樣閱讀)』と『漢語縦横』から教材を選び、文法、語彙を詳細に吟味する。また新語、流行語の実例を考察する。
到達目標	中国の原書の読解力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	テキストを講読し、日本語による訳読や翻訳も行う。
授業 (指導) 計画	前半は現代中国をめぐってさまざまなことを講義し、2回1テーマで進み、次のトピックを取り上げる予定：1 結婚のあれこれ、2 睡眠の話、3 チベット、新疆、雲南、4 人口と環境。 後半は中国語の慣用句 (3字句) を中心に講義する。次の表現を含むテキストを取り上げる予定：1 「傷脳筋」など、2 「愛面子」など、3 「打圓場」など、4 「刀子嘴」など、5 「頂梁柱」など、6 「和稀泥」。
事前・事後学習課題	語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。事前・事後に各60分の学修を要する。
評価基準	平常点を含め、総合的に判断する。
教材等	教材は配布する。参考書：『上級中国語』(趙玲華、ベレ出版)。その他、適宜指示する。
備考	

科目名	上級中国語Ⅱ	科目名(英文)	Advanced ChineseⅡ
配当年次	1	単位数	1
学期(開講期)	半期	授業担当者	瀬戸 宏

授業(指導)概要・目的	この授業では自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。講義の素材は新聞雑誌やウェブサイトなどから選び、文法、語彙、発音を詳細に吟味する。文法に関しては基本中国語文法の枠を超え微細な意味の違いに文法がどのように反映しているか、また新生語、流行語の実例を考察する。話題はさまざまだが、その時しか価値のない内容は避けたい。
到達目標	中国の原書の読解力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	テキストを講読してテキストの内容をめぐって講義し、日本語による訳読をおこなう。
授業(指導)計画	授業では現代中国をめぐってさまざまなことを講義し、2回1テーマで進む。次の話題を取り上げる予定：1 キャンパス・ライン、2 中国人の家庭観念、3 中国の食文化、4 生活観の変化、5 消費の新しい傾向、6 中国人のレジャー、7 職業選択観の変化、8 中国の経済発展、9 交通問題、10 住宅問題、11 人口問題、12 老人問題、13 交際と結婚、14, 15 中国の媒体。
事前・事後学習課題	各回の指定教材をあらかじめ読んだうえ、内容を日本語に訳しておくこと。
評価基準	試験成績及び練習への参加。
教材等	私製教材やコピーを配布する。
備考	

科目名	上級中国語Ⅱ	科目名(英文)	Advanced ChineseⅡ
配当年次	1年	単位数	1
学期(開講期)	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業(指導)概要・目的	この授業では自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。北京語言大学出版社の『漢語縦横』から教材を選び、文法、語彙を詳細に吟味する。また新語、流行語の実例を考察する。
到達目標	中国の原書の読解力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	テキストを講読し、日本語による訳読や翻訳も行う。
授業(指導)計画	中国語の慣用句(3字句)を中心に講義する。次の表現を含むテキストを取り上げる予定：1「拉下臉」など、2「滿堂灌」など、3「手頭緊」など、4「画等号」など、5「開夜車」など、6「發洋財」など、7「砲筒子」など、8「唱高調」など、9「占便宜」など、10「出風頭」など、11「露一手」など、12「百宝箱」など、13「避風港」など、14「小算盤」など。
事前・事後学習課題	語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。事前・事後に各1時間の学修時間を要する。
評価基準	平常点を含め、総合的に判断する。
教材等	書籍名『上級中国語』(著者名：趙玲華、出版社名：ペレ出版)
備考	

科目名	上級スペイン語 I	科目名 (英文)	Advanced Spanish I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	スペイン語で書かれた論文を読み、論理の流れ、論証の仕方を学びつつ、学術論文に特有の言い回しにも慣れるよう指導する。
到達目標	専門的な学術論文を読み解けるようになる。
授業方法と留意点	一文ずつ細かく読み、ニュアンスの違いをつかむとともに、パラグラフごと、章ごと、全体の把握ができるようにする。
授業 (指導) 計画	受講生の関心にしたがい、読むべき論文を探す方法の紹介から始める。 前期はとにかく詳細な読みに徹する。
事前・事後学習課題	進む範囲を決めておくので、その部分に関しては訳すだけでなく、何を聞かれても自分の意見が言えるようにしておく。
評価基準	授業への参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	上級スペイン語 I	科目名 (英文)	Advanced Spanish I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業 (指導) 概要・目的	スペイン語で書かれた論文を読み、論理の流れ、論証の仕方を学びつつ、学術論文に特有の言い回しにも慣れるよう指導する。
到達目標	専門的な学術論文を読み解けるようになる。
授業方法と留意点	一文ずつ細かく読み、ニュアンスの違いをつかむとともに、パラグラフごと、章ごと、全体の把握ができるようにする。
授業 (指導) 計画	受講生の関心にしたがい、読むべき論文を探す方法の紹介から始める。 前期はとにかく詳細な読みに徹する。
事前・事後学習課題	進む範囲を決めておくので、その部分に関しては訳すだけでなく、何を聞かれても自分の意見が言えるようにしておく。事前・事後学修に各 1 時間を要する。
評価基準	授業への参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	上級スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Advanced Spanish II
配当年次	1	単位数	1
学期(開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業(指導)概要・目的	スペイン語で書かれた論文を読み、論理の流れ、論証の仕方を学びつつ、学術論文に特有の言い回しにも慣れるよう指導する。
到達目標	専門的な学術論文を読み解けるようになる。
授業方法と留意点	一文ずつ細かく読み、ニュアンスの違いをつかむとともに、パラグラフごと、章ごと、全体の把握ができるようにする。
授業(指導)計画	受講生の関心にしたがい、読むべき論文を探す方法の紹介から始める。 後期は詳細な読みに加え、全体を見回せる目も養う。
事前・事後学習課題	進む範囲を決めておくので、その部分に関しては訳すだけでなく、何を聞かれても自分の意見が言えるようにしておく。
評価基準	授業への参加度による。
教材等	未定
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	上級スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Advanced Spanish II
配当年次	1	単位数	1
学期(開講期)	半期	授業担当者	北條 ゆかり

授業(指導)概要・目的	スペイン語で書かれた論文を読み、論理の流れ、論証の仕方を学びつつ、学術論文に特有の言い回しにも慣れるよう指導する。
到達目標	専門的な学術論文を読み解けるようになる。
授業方法と留意点	一文ずつ細かく読み、ニュアンスの違いをつかむとともに、パラグラフごと、章ごと、全体の把握ができるようにする。
授業(指導)計画	受講生の関心にしたがい、読むべき論文を探す方法の紹介から始める。 後期は詳細な読みに加え、全体を見回せる目も養う。
事前・事後学習課題	進む範囲を決めておくので、その部分に関しては訳すだけでなく、何を聞かれても自分の意見が言えるようにしておく。 事前・事後学修に各1時間を要する。
評価基準	授業への参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	上級インドネシア・マレー語 I	科目名 (英文)	Advanced Indonesian and Malay I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、国語・公用語として用いている人口が中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の基本を身につけた上で、高度な運用ができることを目指す。
到達目標	インドネシア・マレー語の基本を踏まえた上で、高度な運用が身につく。
授業方法と留意点	インドネシア・マレー語で書かれた教材を用いて、講読力を身につけるように指導する。
授業 (指導) 計画	先ずインドネシア・マレー語の基本文法、発音、綴り等の基本を身につける。さらに講読を通して高度な読解力を習得する。
事前・事後学習課題	語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。
評価基準	平常点を含め、総合的に判断する。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	上級インドネシア・マレー語 I	科目名 (英文)	Advanced Indonesian and Malay I
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	上田 達

授業 (指導) 概要・目的	インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、国語・公用語として用いている人口が中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の基本を身につけた上で、高度な運用ができることを目指す。
到達目標	インドネシア・マレー語の基本を踏まえた上で、高度な運用が身につく。
授業方法と留意点	インドネシア・マレー語で書かれた教材を用いて、講読力を身につけるように指導する。
授業 (指導) 計画	先ずインドネシア・マレー語の基本文法、発音、綴り等の基本を身につける。さらに講読を通して高度な読解力を習得する。
事前・事後学習課題	語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。
評価基準	平常点を含め、総合的に判断する。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	上級インドネシア・マレー語Ⅱ	科目名 (英文)	Advanced Indonesian and Malay II
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、国語・公用語として用いている人口が中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の高度で実際の運用ができることを目指す。
到達目標	インドネシア・マレー語の原書の講読、論文の作成、プレゼンテーション能力を習得できる。
授業方法と留意点	原書の講読を行い、さらに論文の作成を行う。講読、論文作成で養った能力をもとにプレゼンテーションを行う。
授業 (指導) 計画	インドネシア・マレー語の原書の講読を行う。論文作成の基本を指導し、実際に論文を作成する。テーマを決め、プレゼンテーションを行う。
事前・事後学習課題	語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。
評価基準	平常点を含め、総合的に判断する。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	上級インドネシア・マレー語Ⅱ	科目名 (英文)	Advanced Indonesian and Malay II
配当年次	1	単位数	1
学期 (開講期)	半期	授業担当者	上田 達

授業 (指導) 概要・目的	インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、国語・公用語として用いている人口が中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の高度で実際の運用ができることを目指す。
到達目標	インドネシア・マレー語の原書の講読、論文の作成、プレゼンテーション能力を習得できる。
授業方法と留意点	原書の講読を行い、さらに論文の作成を行う。講読、論文作成で養った能力をもとにプレゼンテーションを行う。
授業 (指導) 計画	インドネシア・マレー語の原書の講読を行う。論文作成の基本を指導し、実際に論文を作成する。テーマを決め、プレゼンテーションを行う。
事前・事後学習課題	語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。
評価基準	平常点を含め、総合的に判断する。
教材等	適宜指示する。
備考	

科目名	国際経済特論 I	科目名 (英文)	Topics in International Economy I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	杉本 篤信

授業 (指導) 概要・目的	外国為替市場取引の仕組みを理解し、為替レートの決定理論を理解することである。そしてマクロ的な政策の効果は、マクロ経済学のモデルにおいて説明される。さらに国際金融市場の現状と役割について説明する。
到達目標	貿易、国際金融、為替レートの現状とそれを分析するための理論を理解する。
授業方法と留意点	テキストに従った講義形式。必要に応じてプリントなどを配布。
授業 (指導) 計画	教材の内容の解説とディスカッション。
事前・事後学習課題	講義中に指示下教材の予習をしておくこと。適宜内容を理解度を確認するためレポートなどを提出してもらう。
評価基準	講義中の発言、提出物で評価する。
教材等	講義中指定
備考	

科目名	国際経済特論 II	科目名 (英文)	Topics in International Economy II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	杉本 篤信

授業 (指導) 概要・目的	外国為替市場取引の仕組みを理解し、為替レートの決定理論を理解することである。そしてマクロ的な政策の効果は、マクロ経済学のモデルにおいて説明される。さらに国際金融市場の現状と役割について説明する。また国際金融危機の理論も説明する。
到達目標	貿易、国際金融、為替レートの現状とそれを分析するための理論を理解する。
授業方法と留意点	テキストに従った講義形式。必要に応じてプリントなどを配布。
授業 (指導) 計画	教材の内容の解説とディスカッション。
事前・事後学習課題	講義中に指示下教材の予習をしておくこと。適宜内容を理解度を確認するためレポートなどを提出してもらう。
評価基準	講義中の発言、提出物で評価する 1。
教材等	講義中指定
備考	

科目名	異文化理解 I	科目名 (英文)	Intercultural Communication I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	人はそれぞれ固有の文化に育まれて自己形成する。そのため見知らぬ文化に接触すると、驚愕、感嘆、憤怒、等々、さまざまな心理的反応を示すことになる。この講義では、異文化に対する理解と認識のありようを、異なる学問領域の視点に立って検討する。
到達目標	学問対象に対するアプローチの仕方を身につける。
授業方法と留意点	文献・資料の読解・調査・検討。
授業 (指導) 計画	「植民地支配と異文化接触」 イギリスを中心に植民地支配における異文化接触のあり方について考える。人種的・宗教的・民族的「他者」との遭遇がもたらす葛藤をとおり、歴史的視点から異文化を理解する糸口をさぐる。
事前・事後学習課題	【事前】 初回授業時に配布するテーマにもとづき、指定された文献を読んで授業にのぞむ。 【事後】 毎回の授業内容を小レポートにまとめる。
	総時間数：60 時間
評価基準	授業への取り組み、研究発表、レポートを総合的に評価する。
教材等	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名	異文化理解 I	科目名 (英文)	Intercultural Communication I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	ヨーロッパが世界進出をした 15 世紀末以降、スペイン人は世界各地でいろいろな民族、文化と出会い、それを記録してきた。それらの記録は当時の異文化理解を知る手掛かりとなる。もちろん彼らはそれをスペイン語で書いたが、さいわいそれらの資料は日本語に訳されているものが少なくない。そのような 15 世紀末から 16 世紀後半にかけての旅行記や報告書などをおして異文化理解のあり方を探る。
到達目標	16 世紀ヨーロッパ人の異文化に対する考え方を知る。
授業方法と留意点	日本語に訳された 16 世紀の資料を、言葉の表面的な意味だけでなく、その背後にある思想も読み解く。
授業 (指導) 計画	大航海時代のヨーロッパの歴史をまずつかみ、その後で文献資料を読む。
事前・事後学習課題	毎回進む範囲を決めておくので、その範囲に関しては何を聞かれても自分の意見を言えるよう準備しておく。事前・事後学習に各 1 時間を要する。
評価基準	授業参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	異文化理解 I	科目名 (英文)	Intercultural Communication I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	言語と社会をテーマにする。また、異文化接触についても考察する。言語と社会の関係を研究するための知識を深めることを目的とする。
到達目標	言語の理解に役立つ社会言語学の基礎の習得。
授業方法と留意点	社会言語学に基づいた分析の方法を説明するとともに、受講生が実際に分析を行うことによって、より理解できるようにする。
授業 (指導) 計画	様々な言語について概観し、社会言語学に基づいた分析を行う。
事前・事後学習課題	充分時間をかけ指示された予習、復習をすること。
評価基準	平常点と発表。
教材等	必要に応じて、プリントを用意する。
備考	

科目名	異文化理解 I	科目名 (英文)	Intercultural Communication I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	人はそれぞれ固有の文化に育まれて自己形成する。そのため見知らぬ文化に接触すると、驚愕、感嘆、憤怒等々、さまざまな心理的反応を示すことになる。この講義では、異文化に対する理解と認識のありようを、異なる学問領域の視点に立って検討する。
到達目標	学問対象に対するアプローチの仕方を身につける。
授業方法と留意点	文献・資料の読解・調査・検討
授業 (指導) 計画	「西洋人から見た日本文化」というテーマで、西洋の人々が日本についていかなるイメージを抱き、日本文化をどのようにとらえてきたか、その系譜をたどりつつ、日本あるいは日本文化を、外部の眼差しをとおした「異文化」として研究する。
事前・事後学習課題	授業時に指示する。
評価基準	レポートによる。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	異文化理解 I	科目名 (英文)	Intercultural Communication I
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どうい う社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の 美術や文化を知ることは、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに描き留めてもらいたい。
授業 (指導) 計画	1～2回：奈良時代の美術 法隆寺、東大寺、興福寺 2～5回：平安時代の美術 密教美術、絵巻物、平等院 6～7回：鎌倉時代の美術 運慶、似絵、絵巻物 8回：室町時代の美術 水墨画、雪舟 9回：桃山時代の美術 金碧障壁画、狩野永徳 10～15回：江戸時代の美術 琳派、狩野派、浮世絵
事前・事後学習課題	事前：毎回、次の回の教材を渡すので、事前にその時代の歴史を調べておく。また取り上げる美術作品をWEBや本で見ておく。(毎 回90分) 事後：講義に出てきた作品の画像を集め、ノートをまとめる。不明な点を調べる。
評価基準	レポート
教材等	そのつどプリントを渡す
備考	京都・奈良の寺院や展覧会に足を運び、本物の美術に触れることを勧めます。

科目名	異文化理解 II	科目名 (英文)	Intercultural Communication II
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	林田 敏子

授業 (指導) 概要・目的	人はそれぞれ固有の文化に育まれて自己形成する。そのため見知らぬ文化に接触すると、驚愕、感嘆、憤怒、等々、さまざまな心理 的反応を示すことになる。この講義では、異文化に対する理解と認識のありようを、異なる学問領域の視点に立って検討する。
到達目標	学問対象に対するアプローチの仕方を身につける。
授業方法と留意点	文献・資料の読解・調査・検討
授業 (指導) 計画	「イギリスにおける移民問題」 国内に複数の移民コミュニティを抱えるイギリスを例に、異文化接触の実態と諸問題について考察する。人種的・宗教的・民族的 「他者」との遭遇をもたらす葛藤をとおして、歴史学的視点から異文化を理解する糸口をさぐる。
事前・事後学習課題	【事前】初回授業時に配布するテーマにもとづき、指定された文献を読んで授業にのぞむ。 【事後】毎回の授業内容を小レポートにまとめる。
評価基準	総時間数：60時間 授業への取り組み、研究発表、レポートを総合的に評価する。
教材等	授業中にプリントを配布する。
備考	

科目名	異文化理解Ⅱ	科目名 (英文)	Intercultural CommunicationⅡ
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	篠原 愛人

授業 (指導) 概要・目的	ヨーロッパが世界進出をした 15 世紀末以降、スペイン人は世界各地でいろいろな民族、文化と出会い、それを記録してきた。それらの記録は当時の異文化理解を知る手掛かりとなる。もちろん彼らはそれをスペイン語で書いたが、さいわいそれらの資料は日本語に訳されているものが少なくない。そのような 15 世紀末から 16 世紀後半にかけての旅行記や報告書などをおして異文化理解のあり方を探る。
到達目標	16 世紀ヨーロッパ人の異文化に対する考え方を知る。
授業方法と留意点	日本語に訳された 16 世紀の資料を、言葉の表面的な意味だけでなく、その背後にある思想も読み解く。
授業 (指導) 計画	大航海時代のヨーロッパの歴史をまずつかみ、その後で文献資料を読む。
事前・事後学習課題	毎回進む範囲を決めておくので、その範囲に関しては何を聞かれても自分の意見を言えるよう準備しておく。
評価基準	授業参加度による。
教材等	未定
備考	

科目名	異文化理解Ⅱ	科目名 (英文)	Intercultural CommunicationⅡ
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	山口 真佐夫

授業 (指導) 概要・目的	言語と文化をテーマにする。また、異文化接触についても考察する。言語と文化の関係を研究するための知識を深めることを目的とする。
到達目標	言語の理解に役立つ言語人類学の基礎の習得。
授業方法と留意点	言語人類学に基づいた分析の方法を説明するとともに、受講生が実際に分析を行うことによって、より理解できるようにする。
授業 (指導) 計画	様々な言語について概観し、言語人類学に基づいた分析を行う。
事前・事後学習課題	充分時間をかけ指示された予習、復習をすること。
評価基準	平常点と発表。
教材等	必要に応じて、プリントを用意する。
備考	

科目名	異文化理解Ⅱ	科目名 (英文)	Intercultural CommunicationⅡ
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	小川 豊生

授業 (指導) 概要・目的	人はそれぞれ固有の文化に育まれて自己形成する。そのため見知らぬ文化に接触すると、驚愕、感嘆、憤怒等々、さまざまな心理的 反応を示すことになる。この講義では、異文化に対する理解と認識のありようを、異なる学問領域の視点に立って検討する。
到達目標	学問対象に対するアプローチの仕方をも身につける。
授業方法と留意点	文献・資料の読解・調査・検討。
授業 (指導) 計画	「西洋人から見た日本文化」というテーマで、西洋の人々が日本についていかなるイメージを抱き、日本文化をどのようにとらえて きたか、その系譜をたどりつつ、日本あるいは日本文化を、外部の眼差しをとおした「異文化」として研究する。
事前・事後学習課題	授業時に指示する。
評価基準	レポートによる。
教材等	授業時に指示する。
備考	

科目名	異文化理解Ⅱ	科目名 (英文)	Intercultural CommunicationⅡ
配当年次	1	単位数	2
学期 (開講期)	半期	授業担当者	岩間 香

授業 (指導) 概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どうい う社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本 の美術や文化を知ることは、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。
授業 (指導) 計画	1～2回：奈良時代の美術 法隆寺、東大寺、興福寺 2～5回：平安時代の美術 密教美術、絵巻物、平等院 6～7回：鎌倉時代の美術 運慶、似絵、絵巻物 8回：室町時代の美術 水墨画、雪舟 9回：桃山時代の美術 金碧障壁画、狩野永徳 10～15回：江戸時代の美術 琳派、狩野派、浮世絵
事前・事後学習課題	事前：毎回、次の回の教材を渡すので、事前にその時代の歴史を調べておく。また取り上げる美術作品をWEBや本で見ておく。(毎 回90分) 事後：講義に出てきた作品の画像を集め、ノートをまとめる。不明な点を調べる。
評価基準	レポート
教材等	そのつどプリントを渡す
備考	京都・奈良の寺院や展覧会に足を運び、本物の美術に触れることを勧めます。

大学院シラバス

2016年4月

発行 常翔学園 摂南大学

寝屋川学舎 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17番8号
電話 (072) 839-9106 【教務課】

